

第四十五回帝國議會
衆議院

刑事訴訟法案(刑事訴訟法案) 委員會會議錄(速記) 第十回

會議

大正十一年三月六日午前十一時開議
出席委員左ノ如シ

委員長	鳩澤	總明君
理事	熊谷 直太君	
理事	鈴木富士彌君	
志賀和多利君	水野吉太郎君	磯田三郎君
大造寺慶男君	齋藤鶴太郎君	板野 友造君
禰 苗代君	原 夫次郎君	宮古啓三郎君
横山金太郎君	作間 耕逸君	北井波治目君
山移 定政君	野村 嘉六君	嶋本 信二君
今六日委員清瀬一郎君辭任ニ付其ノ補闕トシテ板野友造君ヲ議長ニ於テ選定セリ		森山儀文治君
出席政府委員左ノ如シ		横山勝太郎君

司法次官	山内確三郎君
法制局長官	横田千之助君
司法省刑事局長	林 頼三郎君
司法省監獄局長	山岡萬之助君
司法省參事官	上林安太郎君
司法省參事官	清水 行恕君
司法書記官	皆川 治廣君
司法事務官	宮城長五郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ
刑事訴訟法案
陪審法案

○鳩澤委員長 是ヨリ陪審法案ノ委員會ヲ開キマス、其前ニ一寸御報告致シマスガ、清瀬一郎君ガ理事ニナッテ居リマシタガ辭任致シマシタカラ、板野友造君ガ之ニ代リマシタ
○作間委員 前會ニ引續イテ質問ヲ致シマス、三四點デアリマス、其第一點ハ請求陪審ノ範圍ニ關スル事柄デアリマス、本案ニ依リマスト云フト、長期三年ヲ超ユル懲役又ハ禁錮ニ該シテ居ル被告人ノ請求ニ依ッテ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス、斯様ニ相成ッテ居リマスルト云フト、是ハ長期ノ長イ刑ハ、即チ重イ刑デアル、重イ刑ニ付テハ被告人ノ請求ニ依ッテ之ヲ陪審ノ評議ニ付サナケレバナラヌケレドモ、是ヨリモ長期ノ短イ輕イ刑ハ、必シモ陪審ノ評議ニ付スルヤウナ鄭重ノ手續ハ必要トシナイト云フ思召デアリマセウガ、重イ刑ニ該ルヤウナ罪ヲ犯シマスル者ハ、比較的既ニ社會カラ排斥セラレテ居ル、謂ハバ社會ニ相當ノ名譽信用等ヲ有ッテ居ル人ニハ少ナイノデアリマス、社會ニ相當ノ地位名譽信用等ヲ有ッテ居ル人ノ多クハ、却テ輕キ罪ノ爲ニモ非常ニ惱マサレコトガアルノデアリマシテ、其苦痛ハ社會ニ排斥セラレテ居ル人ガ、重キ罪ニ處セラレマスル苦痛ヨリモ、未ダ社會ニ排斥セラレザル人ガ、輕キ罪ニ依ッテ被ル苦痛ノ方ガ、比較的ヨリ大ナルモノガ存スルノデアリマス、加之長期三年ヲ超ユル刑ニ該ル罪ト致シマシテハ、通常世間ニ最モ起リ易イ賄賂ニ關スル罪、名譽信用毀損ニ關スル罪、脅迫ノ罪、家宅侵入ノ罪、公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲セル罪、斯様ナ罪ハ一切除外致サレテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ種類ノ罪ガ却テ世間ニハ生ジ易イ、又其嫌疑ヲ受ケタ人ガ、多クハ未ダ社會ニ排斥セラレナイ人デアッテ、其苦惱ガ非常ニ重イコトヲ感ジラレルノデアリマス、本案ノ原案ニ依リマス、請求陪審ノ範圍ヲ短期一年以上ノ刑ニ該ル罪トサレテ居ルノデアリマス、原案ノ短期一年以上ノ刑ニ該ル罪デモ矢張隨分陪審ノ請求ノ出來ナイ種類ガ多イコトニナッテ居ルノデアリマスガ、更ニ本案ニ於テ之ヲ改メテ長期三年ヲ超ユル罪ト云フコトニ致サレタルハ、一層請求陪審ノ範圍ヲ縮少セラレテ傾ガ認メラレルノデアリマスルガ、而モ此點ハ樞密院ニ於テ、所謂難關ノ一ツノ事情ニ相成クタク漏承ッ居ルノデアリマス、政府ガ請求陪審ノ範圍ヲ成ベク擴ゲラレ方針ヲ御執リニナラシメテ、成ベク縮メラレ方針ヲ御執リニナラシメテ、折角此有難イ請求陪審ノ制度ニ付テ、世間ニ通常起ル人ハ、而シテ世間有用ノ人ガ此特殊ノ恩典ニ與リ得ナイト云フコトニ相成リマシタコトニ付テ、當局ノ御意見ヲ承リタイト思ヒマス

用等ヲ有ッテ居ル人ノ多クハ、却テ輕キ罪ノ爲ニモ非常ニ惱マサレコトガアルノデアリマシテ、其苦痛ハ社會ニ排斥セラレテ居ル人ガ、重キ罪ニ處セラレマスル苦痛ヨリモ、未ダ社會ニ排斥セラレザル人ガ、輕キ罪ニ依ッテ被ル苦痛ノ方ガ、比較的ヨリ大ナルモノガ存スルノデアリマス、加之長期三年ヲ超ユル刑ニ該ル罪ト致シマシテハ、通常世間ニ最モ起リ易イ賄賂ニ關スル罪、名譽信用毀損ニ關スル罪、脅迫ノ罪、家宅侵入ノ罪、公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲セル罪、斯様ナ罪ハ一切除外致サレテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ種類ノ罪ガ却テ世間ニハ生ジ易イ、又其嫌疑ヲ受ケタ人ガ、多クハ未ダ社會ニ排斥セラレナイ人デアッテ、其苦惱ガ非常ニ重イコトヲ感ジラレルノデアリマス、本案ノ原案ニ依リマス、請求陪審ノ範圍ヲ短期一年以上ノ刑ニ該ル罪トサレテ居ルノデアリマス、原案ノ短期一年以上ノ刑ニ該ル罪デモ矢張隨分陪審ノ請求ノ出來ナイ種類ガ多イコトニナッテ居ルノデアリマスガ、更ニ本案ニ於テ之ヲ改メテ長期三年ヲ超ユル罪ト云フコトニ致サレタルハ、一層請求陪審ノ範圍ヲ縮少セラレテ傾ガ認メラレルノデアリマスルガ、而モ此點ハ樞密院ニ於テ、所謂難關ノ一ツノ事情ニ相成クタク漏承ッ居ルノデアリマス、政府ガ請求陪審ノ範圍ヲ成ベク擴ゲラレ方針ヲ御執リニナラシメテ、成ベク縮メラレ方針ヲ御執リニナラシメテ、折角此有難イ請求陪審ノ制度ニ付テ、世間ニ通常起ル人ハ、而シテ世間有用ノ人ガ此特殊ノ恩典ニ與リ得ナイト云フコトニ相成リマシタコトニ付テ、當局ノ御意見ヲ承リタイト思ヒマス

○林政府委員 陪審ニ掛クベキ事件ノ範圍ヲ如何ニスルカト云フコトハ、餘程ノ問題デアルト思ヒマスガ、併ナガラ大體ニ於テハ重イ事件ヲ陪審ニ掛ケル、輕イ事件ハ陪審ニ掛ケナイデ宜カラウ、斯ウ云フコトハ動カヌノデアリマス、唯何處ニ境界ヲ置クカト云フコトガ困難ノ問題デアルトデアリマス、今御尋ニナリマシタ此法案ヲ立案シマシタ經過ニ於テ、短期一年以上ノ者ハ請求陪審ノ範圍ニスルト云フヤウナコトニ一應定メタコトモアルノハ事實デアリマス、併ナガラ此法案ハソレヨリハ請求陪審ノ範圍ガ非常ニ擴張シマシタノデ、ソレヨリ狹マタ譯デハナイノデアリマス、即チ短期一年以上ト申シマス、所謂重罪事件デアリマス、例ヘバ窃盜デアルトカ、詐欺デアルトカ云フヤウナモノハ、全然入ラスコトニナルノデアリマス、併ナガラ此法案ノ如ク長期三年ヲ超ユルト云フコトニナリマス、サウ云

フモノモ入ルコトニナリマス、此點ハ今ノ御尋ノ趣意トハ少シク其關係ガ違フヤウニ考ヘマス、兎ニ角長期三年ヲ超ユルト云フヤウナ犯罪ハ、比較的的重大ナル犯罪デアリマシテ、被害等ノ利害關係ハ矢張大キイ譯ニナルノデアリマス、ソコデハ請求陪審ノ範圍ニ屬スルト云フコト、シタ、詰リ陪審ニ付シテ鄭重ナル審理ヲスル、此以外ノモノハ之ニ入レナイト云フコトニ致シマシタ、是ハ鄭重ナル審理ヲ重大ナル事件ニ就テスルト云フ方面モ一ツノ理由デアリマスガ、併ナガラ陪審ト云フコトハ、國民トシテハ餘程ノ負擔デアリマス、輕イ事件ニ付テモ陪審ニ付スルト云フコトニナツタナラバ、國民ノ負擔ト云フモノハ容易ナコトデハナイ其方面カラモ陪審ノ範圍ト云フモノハ非常ニ考慮スル必要ガアリマス、是等ノ點モ考慮シマシテ、斯ノ如ク決メタ次第デアリマス

○作間委員 同ジク請求陪審ノ許サレナイ罪ノ中ニ、法定陪審ヲ許サレナイノデアリマスガ、此選舉ニ關スル犯罪ガアルノデアリマス、本案ノ原案ニ依リマス、選舉ニ關スル犯罪ヲ除クコト云フコトハナイノデアリマシテ、選舉ニ關スル違反事件、是等モ總テ陪審ニ付セラレタノデアリマスルガ、本案ニ依リマス、選舉ニ關スル罪ハ陪審ヲ請求スルコトガ出來ナイコトニ相成ッテ居リマス、是ハ主ニ矢張陪審ノ上ニ政黨政派ノ色彩ガ現ハレル處ガアルト云フコトヲ慮カラレタ爲デハアルマイカト一應心付カレマス、クレドモ、此點ハ原案ニナクシテ、本案ニ特ニ之ヲ明ニ致サレマシタコトハ、矢張其邊ノ理由ニ基クノデアリマセウカ、之ニ對シマスル各國ノ法制ノ傾向ハ如何ニナッテ居ルノデアリマセウカ、一應ニツ伺ッテ置キタイト思ヒマス

○林政府委員 選舉ニ關スル犯罪ヲ陪審事件カラ除外シマシタ理由ハ、我國ノ實際ノ事情等ヲ十分ニ參照致シマシテ、考慮致シタ結果デアリマス、詰リ選舉ニ關スル犯罪ニ付テハ、概シテ陪審ニ掛ケルト云フト、陪審ノ評決ガ冷靜ヲ失スル結果、必ズシモ適當ナ評決ニ歸著スルコトガ困難ナコトガ多カラウ、斯ウ云フヤウナ考デ除外スルコトニナリマシタ、是ハ私モ實際ノ上ニ於テ必要ナ事デアラウト考ヘル、外國ノ立法ニ於テハ、斯ノ如キ制限ハ無イト私ハ記憶シテ居リマス
○作間委員 次ハ陪審員ノ資格ニ關スル問題デアリマス、此陪審員トナルベキ者ノ資格ノ中ニ「讀ミ書キヲ爲シ得ル事」ト云フ一條件ガアリマス、之ヲ外國ノ實際ノ狀態ニ

較ベマスレバ、所謂「署名ヲ爲シ得ル事」即チ「サイン」トヲ自ラ爲シ得ル者ハ、即チ一應ノ資格アリト云フコトニ認メラレマス。一ツノ標準ニナルコトデアリマセウガ、單ニ「讀ミ書キヲ爲シ得ルコト」ト云フノデハ、如何ナル程度如何ナル標準ニ於テ爲シ得ル者ト爲シ得ザル者ト區別スルコトガ出來ルノデアリマセウカ、極ク之ヲ曲ゲテ解釋ヲ致シマスルト云フト、此選定ノ任ニ當リマス。市町村長其他ノ役員ニ於キマシテ、例ヘバ尋常四年程度ノ小學讀本ヲ讀メル人ニ對シテモ、マダソレデハ不十分デアル、或ハ又尋常二年ノ讀本ヲ讀メル人ニ對シテモ、ソレナラバ先ヅ宜カラウト云フヤウナ、區々ノ取扱ニ相成ルノデ、獨リ同一市町村內ニ於テ區々ノ取扱ヲ爲スヤウナ處ガアルノミナラズ、全國各地方市町村ニ於テハ矢張此標準ガ嚴格ニ定メテアリマセスト云フト、非常ニ其間ニ均衡ヲ失スルヤウナコトガアリハシナイカト思フノデアリマス、即チ言換ヘマスレバ、選舉ニ當リマスル者ガ、成ベク選出シテヤラウト思ヘバ、其程度ヲ下ゲ、成ベク選バセマイト思ヘバ、其程度ヲ上ゲ、所謂讀ミ書キヲ爲シ得ル者ト爲シ得ザル者トノ區別ヲ、自由ニ判斷スルコトガ出來ルノダラウト思フノデアリマス、此點ハ寧ロ一定ノ劃一シタル嚴格ナ標準ヲ規定スルコトガ出來ナカッタノデアリマセウカ、固ヨリ直ニ教育程度ヲ目安トシテ、或ハ小學校ヲ卒業シタル者、或ハ義務教育ヲ卒ヘタル者ト云フヤウニ參ラナイ事情モアリマセウケレドモ、相成ベクハソレニ近イ、何人ガ見テモ直ニ其資格ノ判斷ヲ爲シ得ラル、ヤウナ條件ニ定メラレタ方ガ、公正ヲ保ツ所以デアラウト思ヒマスガ、其點ニ付テ政府當局ノ御意見ヲ伺ヒタイ

○馬場政府委員 洵ニ御尤ナ御質問デアリマスガ、「讀ミ書キヲ爲シ得ル」トシマシタルハ、今日日常使用セラル、普通ノ文章ヲ讀ミ又ハ書キ得ルト、斯ウ云フ程度デアリマスガ、是ハ實ハ外國ノ立法例ニモ多少比例ガアルノデス、例ヘバ奧地利デアリマスガ、讀書及筆記ヲ爲シ得ル者ト云フヤウナ事ガ書イテアルノガアル、之ヲナゼ具體的ニ小學校ヲ卒業シタルカ云フヤウナ文字デ表ハサナカッタカト云フ事ニ付テハ、只今御説明ノアツタ様ニ、マダ日本デハ義務教育ヲ施カレテ後、年限ガ餘リ經テ居ラスノデス、未ダ小學校ヲ卒業セヌデモ、相當ノ人ガアルノデアリマス、ソコデ小學校ヲ卒業シタル者ト書クト云フコト、サウ云フ者モ除外セラル、即チ具體的ニ教育程度ハ書ケナイ、然ラバト云フデ、只署名ヲ爲シ得ルト云フヤウナ者デアルト、單ニ選舉ノ事カ云フヤウナ事デアレバ宜シイガ、陪審員トシテ證據書類モ見、又ソレノ陪審員トシテ多少文書ニ記スト云フヤウナ必要モアル、ソレ等ヲ考ヘテ、多少漠然トシテハ居リマス

ケレドモ、斯ク書クヨリ外ナカッタ、結局小學校ヲ卒業シタル者デアリマスレバ、讀ミ書キヲ爲シ得ル者ト云フ中ニ入ル、小學校ヲ卒業セズトモ、日常ノ文書ヲ讀ミ、或ハ之ヲ綴リ得ル者ハ、此中ニ入レル、斯ウ云フ事ニ致シタ次第デアリマス、多少具體的デナイト云フコトハ遺憾デアリマスガ、是等ハ裁判所判事ガ、市町村長ガ資格者ノ名簿ヲ作ル上ニ、監督權ヲ有テ居リマスカラ、適當ニ統一ノ訓令ヲ以テ、先ヅ各市町村ノ間ニ於テ區々ニナラス様ニ實行シテ行ク、斯ウ云フ考デアリマス

○作問委員 同ジク陪審員ノ資格ニ付テ、六十歳以上ノ者ハ、陪審員ニナレケレドモ、唯職務ヲ辭スルコトガ出來ル、斯ウ云フコトニ相成テ居ルノデアリマス、所ガ御承知ノ通り、六十歳以上ノ者ト云フモノハ、民法ニ於テ普通ニ隱居ヲ許ス年齢デアリマス、且ツ生理狀態カラ申シマシテ、耳ガ遠クナリ、眼ガ遠クナル、モウ老域ニ入ッテ者デアリマス、之ヲ待遇スルニ唯辭職ダケハ許スケレドモ、矢張陪審員ノ資格ハ與ヘルト云フ事ニナッテ居リマス。ト云フト、是等ノ人ハ實際ニ於テハ世間デ隱居ヲシテ居ル者デアアル、大抵息子ヤ相續人ガ家政ヲ執ッテ居ル閑者デアアル、辭セルト云フデモ、珍クハアルシ、閑デハアルシ、面白クモアルシ、中々容易ニ止メナイト思フ、其遠キ耳ヲ以テ、短イ時間ニ審理セラル、所ノ事案ノ證據ヲ見聞シ、事實ヲ承ルト云フコトハ、容易ナモノデナイト、又其上ニ是等ノ老人達ハ、大抵其考ガ頑固デアッテ、謂ハ、勝手ノ考ヲ飽迄通シタイト云フヤウナ性癖ノ人ガ中々多イノデアリマス、判斷ノ淡泊公平ヲ期ス所以デナカラウト思フ、陪審員トシテ女子ヲ其中ニ認メナカッタノハ所謂其性格ガ一方ニ偏シ易クシテ、陪審員タル職務ノ公正ニ適シナイト云フコトカラ省カレタノデアリマセウガ、老人モ一部ハ確ニ女子ト同ジヤウニ見テ然ルベキ理由ガアラウト思ヒマス、是ハ寧ロ「辭スルコトヲ得」ヨリモ、下ノ年齢ハ三十歳以下ハ陪審員ニナルコトガ出來ナイ、上ノ年齢ハ六十歳以上ハ陪審員ニナルコトガ出來ナイト云フヤウニ、年齢ノ上下ヲ制限シテ、共ニ陪審員ノ缺格者ニセラレタ方ガ、理論上ニ於テモ相當デアリ、又實際ノ事情ニモ適應スルモノト考ヘラレマスガ、其邊ハ如何デアリマセウカ

出來ルト云フ位ノ程度ガ、一番適當デアラウト、斯ウ云フ考デアリマス

○作問委員 其點ハ政府委員ト觀察ヲ異ニシテ居ルノデアリマス、次ニ御尋シタイノハ、陪審制度ノ審理ニ關スル主義ノ點デアリマスガ、凡ソ陪審制ノ最モ特色トスル所ハ、總テノ事實審理、總テノ證據ノ取調ガ、所謂直接審理ノミニ依ッテ實カル、ト云フコトガ、其精神デナケレバナラヌト心得テ居ルノデアリマス、本案ヲ見マスルト、一應原則ト致シマシテハ、第七十一條ニ「證據ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外裁判所ノ直接ニ取調ベタルモノニ限ル」ト云フコトヲ明ニサレテ居リマス。ケレドモ、所謂別段ノ定アル場合ハ隨分アルノデス、七十二條以下三箇條ニ於テ、此七十一條ノ原則ヲ大部分ハ破壞セラレテ居ルノデアリマス、是ハ丁度大體ニ於キマシテ、刑事訴訟法案ノ中ノ證據調ニ關スル規定ト同ジヤウナ程度ニ相成テ居ルト心得ヘテ居リマスガ、是デハ折角此陪審ノ直接審理、主義ヲ別段ノ定メアル場合、所謂例外ノ場合ヲ非常ニ擴張セラレマシタガ爲ニ、此陪審制ノ特色デアアル直接審理ハ根柢カラ破ラレタト見テモ差支ヘナイ位デアリマス、是等ノ特別ガ非常ニ廣ク設ケラレテ、居リマシテハ、成程判事ダケハ公判ニ於テ、又公判準備手續ニ於テ、又ハ其前ノ非公式ノ取調ニ於テ、色々證據ヲ調ベテ其心證ヲ豫メ得テ置クコトガ出來マス。ケレドモ、陪審員ハ唯公判ダケニ立會フノデアリマスカラ、其證據ハ全部直接審理デナイト限リハ、判事ガ證據ニ依ッテ得心證ト、陪審員ガ陪審ニ立會ッテ場合ニ於ケル證據調ニ依ッテ得心證ト、自ラ厚薄ノ別ヲ生ジハシナイカト思フノデアリマス、即チ主義ノ上カラ申シマシテモ、亦實際ノ上カラ申シマシテモ、私ハ陪審制ハ飽迄直接審理ヲ貫カレナケレバナラヌト思フノデアリマス、本案ノ如キハ之ニ對スル例外ノ場合ガ餘リニ大キ過ギル、餘リニ廣過ギル感ガ致スノデアリマス、何モ刑事訴訟法ト併行シテ總テノ規定ヲ定メル必要ハナイノデアリマス、其點ニ付テ政府當局ノ確乎タル御意見ヲ承リタイト思フノデアリマス

○林政府委員 陪審ノ直接審理ヲ原則トシナケレバナラヌコトハ當然デアリマス、此法案ニ於テモ、其原則ヲ確立致シテ居リマス、只今例外ノ場合ガ非常ニ多イノデ、原則ガ破壞サレルト云フ御質問デアリマスガ、サウ云フコトニハナッテ居ナイト考ヘマス、例ヘバ豫審ノ訊問調書デアルト云フヤウナモノハ、刑事訴訟法ニ於テハ、是ハ證據トナルコトニナッテ居リマスガ、陪審法ニ於テハ、サウ云フモノハ、或特殊ノ例外ノ場合ノ外ハ證據トナリマセヌ、證人訊問ト云フヤウナ事ニ付テハ、直接審理ノ原則ガ先ヅ徹底シテ居ルト見テ宜カラウト思ヒマス、唯本案ガ例外ヲ設ケマシタルハ、實

○馬場政府委員 洵ニ御尤ナ御質問デアリマスガ、「讀ミ書キヲ爲シ得ル」トシマシタルハ、今日日常使用セラル、普通ノ文章ヲ讀ミ又ハ書キ得ルト、斯ウ云フ程度デアリマスガ、是ハ實ハ外國ノ立法例ニモ多少比例ガアルノデス、例ヘバ奧地利デアリマスガ、讀書及筆記ヲ爲シ得ル者ト云フヤウナ事ガ書イテアルノガアル、之ヲナゼ具體的ニ小學校ヲ卒業シタルカ云フヤウナ文字デ表ハサナカッタカト云フ事ニ付テハ、只今御説明ノアツタ様ニ、マダ日本デハ義務教育ヲ施カレテ後、年限ガ餘リ經テ居ラスノデス、未ダ小學校ヲ卒業セヌデモ、相當ノ人ガアルノデアリマス、ソコデ小學校ヲ卒業シタル者ト書クト云フコト、サウ云フ者モ除外セラル、即チ具體的ニ教育程度ハ書ケナイ、然ラバト云フデ、只署名ヲ爲シ得ルト云フヤウナ者デアルト、單ニ選舉ノ事カ云フヤウナ事デアレバ宜シイガ、陪審員トシテ證據書類モ見、又ソレノ陪審員トシテ多少文書ニ記スト云フヤウナ必要モアル、ソレ等ヲ考ヘテ、多少漠然トシテハ居リマス

○馬場政府委員 一應御意見ノアル所ハ分リマシタガ、政府デハ六十歳以上ノ者ヲ左程ニ陪審員ニ不適任ナリトハ認メナイノデアリマス、日本ノ制度デモ、成程六十歳以上デハ隱居出來ルト云フ事ニナッテ居リマスガ、又或特別ノ職務ニ從事スル者ハ六十歳以上ノ者ガアル、例バ裁判官ノ如キ、六十歳トカ云フ定年法ハ出來マシタケレドモ、唯特別ノ職務ニ從事スル爲デアッテ、陪審員位デハ、六十歳以下ノ男子ヲサウ不適任トハ思ハナイ、其自分ノ都合デ辭スルコトガ

○林政府委員 陪審ノ直接審理ヲ原則トシナケレバナラヌコトハ當然デアリマス、此法案ニ於テモ、其原則ヲ確立致シテ居リマス、只今例外ノ場合ガ非常ニ多イノデ、原則ガ破壞サレルト云フ御質問デアリマスガ、サウ云フコトニハナッテ居ナイト考ヘマス、例ヘバ豫審ノ訊問調書デアルト云フヤウナモノハ、刑事訴訟法ニ於テハ、是ハ證據トナルコトニナッテ居リマスガ、陪審法ニ於テハ、サウ云フモノハ、或特殊ノ例外ノ場合ノ外ハ證據トナリマセヌ、證人訊問ト云フヤウナ事ニ付テハ、直接審理ノ原則ガ先ヅ徹底シテ居ルト見テ宜カラウト思ヒマス、唯本案ガ例外ヲ設ケマシタルハ、實

際上已ムヲ得ザル場合、而シテ又實際上不當デナイト云フ
場合ニ限定シテアリマス、大體ニ於テ直接審理ノ原則ヲ先ヅ
徹底シテ居ルト考ヘテ居リマス

○作問委員 私共ハ直接審理主義ガ完全ニ一貫サレテ居
イト認メマス、特別ノ場合ガ餘リニ廣ク、餘リニ多過ギルト
思ヒマス、此以上ハ意見デアアルカラ申上ゲマセス、其次
ニ被告人ガ陪審ヲ辭退シ得ルト云フコトデアリマス、
是ハ請求陪審ノ時ニハ、自ら請求シテ陪審ニ付スル
ノデアリマスカラ、又之ヲ辭スルコトモ自分ノ勝手デアリ
マセウ、或程度マデソレヲ許シテ差支アリマセウガ、法
定陪審ノ如キハ、是ハ元來陪審ニ付スルト云フコトガ、
法律ヲ以テ定メラレテ居リマスノデ、罪ノ有無ヲ明カニス
ルト云フコトハ、必シモ其被告人一個人ノ利益ノ爲デハナ
イ、國家ノ公益ニ關スルコトデアリマスシテ、所謂一般ノ政策
ニ屬スルコトデアリマスカラ、既ニ本案ノ第二條ニ於テ死
刑又ハ無期ノ懲役ニ該ル事件ハ、之ヲ陪審ノ評議ニ付スト
云フコトガ嚴格ニ規定サレテ居リマス、所謂法定陪審ノ範
圍ガ極デ居リマス以上ハ、此陪審ノ評決ニ付セラレト云
フ事ハ、唯被告人ノ權利ノミデハナイ、被告ハ自由ニ之ヲ投
棄シ得ベキモノバカリデハナイ、國家ハ一面ニ於テ被告ノ
意思ニ反シテモ、法定陪審ヲ遂行シナケレバナラス公ノ必
要ヲ認メルノデアリマス、然ルニ法定陪審ニ於テモ、被告人
ノ辭退ヲ許サレト云フ事ハ、是ハ唯單ニ陪審ナド、云フ
モノハ徒ニ手数料費用ノ掛ルモノデアアルカラ、被告ガ希望
シナケレバ、國家ハ無理ニ之ヲ強要スル必要ハナイ、成ベ
クサウ云フコトハ減タガ方宜シイト云フ單純ニ御考デア
リマセウガ、ソレニ關聯シテ承リタイノハ、前回ニモ一寸質
問ヲ致シテ置キマシタガ、被告人ガ公訴事實ヲ認メタ場合
ニ於テハ、矢張陪審ノ評議ニ付シナイト云フコトニ相成
テ居リマス、是ハ被告ガ公訴事實ヲ認メタカラト申シマシ
テモ、必ズシモ總テノ場合ソレガ事實ノ真相デアルトハ申サ
レナイ、例ヘバ博徒ノ親方ガ殺シタスル、其場合ニ子分ガ
親分ニ代テ出テ參ル、所謂親分ノ身代リトナル、サウシテ
私ガヤツタニ相違ゴザイマセス、斯ウ云フヤウナ自ラ進
デ罪ニ服スルコトヲ希望シテ打テ出ルト云フ様ナ場合モ
アルノデアリマスカラ、是亦事實ヲ認シタカラト云フデ、
是ガ必ズ事實ノ真相ト云フコトハ、決シテ言ヘナイ、況ヤ其
事實ヲ認メルト云フコトハ、前回申シマシタ通り被告人ノ
心理狀態カラ、或ハ認ムルヤウナ、或ハ認メザルヤウナ、極
メテ曖昧ナル、ドチラデモ解釋ノ出來ルヤウナ申立ヲスル
場合ガ多イノデアリマス、從來ノ裁判振リニ依リマスルト
云フト、其場合裁判官ノ方カラハ事實ヲ認シタモノト見、
辯護人ノ方カラハ未ダ是認セザルモノト見、裁判官ト辯護

人トノ見解モ自ラ相反シテ來ルヤウナコトガ多イノデア
リマス、是ハ公訴事實ヲ認メタ以上ハ、陪審ニ付スル必要ガ
無イト云フ事ニ相成テ、其場合ニ陪審ミタヤウナ手續ト、
費用ノ掛ルモノハ、成ベクヤリタクナイト云フ思召デ、陪審
ノ評議ニ付スルコトヲ許サレナイト云フコトニ相成リマシ
テモ、セメテモ其自白ガ被告人ガ公判ニ於テ、即チ陪審員列
席ノ際ニ、或ハ列席セザル公判廷ニ於テ、即チ公開セラレタ
裁判廷ニ於テ事實ヲ認メタ場合位ニ限ラレテ、公判準備手
續——公判準備手續ハ御承知ノ通り、本案ニ依レバ公開セ
ラレザル事ニ相成テ居ル、所謂無罪ノ下調ノヤウナヤリ方
デ、唯判事ト關係ノ人ダケニ依テ、公開セザル法廷ニ於テ、
コンノト調上ゲラレテシマフノデアリマスカラ、サウ云
フ場合ニ於テ事實ヲ認メタキデモ、陪審ノ評議ニ付セナイ
ト云フ事ハ、私ハ餘リニ被告ノ爲ニ強テ陪審ノ評議ヲ取上
ゲラレルヤウナ感ジガ致シテシ様ガナイノデアリマス、是
ハ前回ニモ一應申上ゲテ置キマシタガ、ドウシテモ公訴事實
ヲ認メタ場合ニ陪審ヲヤメラレル場合ハ、餘程狭キ範圍ニ
於テ御定メニナッテ然ルベキデアラウト思フ、本案ノ公判及
公判準備手續ノ取調ノ兩方ノ場合ニ於テ、公訴事實ヲ認メ
タ場合ニハ、總テ陪審ヲ付ケナイコトニ相成テ居ルノハ、
甚ダ陪審ヲ取上ゲラレル場合ガ廣過ギルト思フ、此點ニ付
テ伺ヒマス

○林政府委員 法定陪審ノ場合ニ、被告人ニ之ヲ辭退スル
コトヲ許スノ適當デナイト云フ御意見ハ、一面カラ見レバ
洵ニ御尤ノ事デアアルト考ヘマスガ、併ナガラ陪審制度ハ、一
方ニ於テハ陪審ノ評議ニ付スルコトニ依ッテ、被告人ヲ悅服
セシムルコトガ一ノ眼目ニナッテ居リマス、ソレデアリマ
スカラ、陪審ハ被告人ニ無理強ヒラスルト云フコトハ、是ハ餘
程考慮シナケレバナラス事ト考ヘマス、一概ニ御説ニ服ス
ル譯ニ行キマセヌト、且ツ我邦ニ於テ始メテ陪審ト云フ
事ヲ行フニ當ッテ、殊ニ被告人ニ無理強ヒラスルト云フコト
ハ、實際上ニ於テ適當デナイト云フ考カラ、辭退ヲ許ス事ニ
シタ次第デアリマス、ソレカラ第二ノ被告人ガ犯罪事實ヲ
認メタ場合ニ、陪審ニ付セナイノハ適當デナイト云フ御議
論デアリマスガ、斯ノ如ク規定シタ理由ハ、前回ニ於テ馬場
政府委員ヨリ、又私ヨリモ御答シタ通りデアリマスガ、本案
ニ於テハ公判又ハ公判準備手續デアルコトニナッテ居リマ
スノデ、其以外ノ手續ニ於テ自由シタル場合ニハ、矢張陪審
ニ掛ケル事ニナッテ居リマス、公判準備手續ハ、明文ニアリ
マスル通り、辯護人ガ必ズ列席スルコトニナッテ居リマス、決
シテ豫審ノヤウニ全然他ノ關係者ノ立會ノ無イ場合ニナル
ト云フコトニ付テ、問題ニナルコトハアルマイト思ヒマス、

故ニ今御懸念ニナッタヤウナ事ハ、此法案ノ適用ノ上ニ於
テハ生ジナイト思ヒマス

○作問委員 實際ニ於テソレガ多イノデアリマス、サウ云
フ懸念ヲ生ジ易イノデアリマス、馬場サンハ司法部ニハ御
在デニナリマセヌケレドモ、林サンハ司法部ニ御在デニナ
リマシテ、能ク御承知ノ事デアリマスガ、被告ガ絕對ニ事實
ヲ認メルト云フ場合ハ極稀デアリマス、認メルヤウナ認
メナイヤウナ、或ハ大部分ハ認メタケレドモ、一部肝腎ナ點
ヲ認メナイヤウナ、或ハ一部肝腎ナラザル點ヲ認メテ、其他
ノ部分ハ認メザルヤウナ場合ガアルノデス、此場合ガ通例
デアリマス、其場合ニ裁判官ハ是ハ事實ヲ認メタモノトシ、
辯護人ハ未ダ認メザルモノトシ、見解ノ岐レタ場合ニハ、ド
ウ云フ標準ニ依ル思召デアリマスカ

○林政府委員 本案ニ被告人ガ公訴事實ヲ認メタ場合ト云
フノハ、無論全部共認メタ場合ヲ云フノデアリマス、一部
ヲ認メ一部ヲ否認スルヤウナ場合ハ、之ニ該當シナイノデ
アリマス、ソレデアリマスカラ、實際ニ於テ認メタカ認メヌ
カト云フ疑ノ生ズルコトハ多クアルト思ヒマス、無論明白
ニ認メタ場合デナケレバ適用ガナイノデアリマス

○作問委員 其認ムル程度ガ明白ニ至ラザル場合、又認ム
ル部分ガ全部ニ至ラザル場合ガ多イノデ、其場合ニ於テ實
際ニ於テ中々爭ガ起ルデアラウト思ヒマス、裁判長ハ成ベ
ク陪審ノ手續面倒ヲ欲セザル位地カラシテ、陪審ヲ付ケル
コトヲ避ケヤウト致サレル態度ヲ自然ニ御執リニナルコト
デアッタト思フ、私ハ本案施行ノ時ニ、實際ニ於テ紛議ノ起
ル一ノ事情ニナリハセヌカト今カラ案ジラレルモノデアリ
マス、最後ニ今一點伺ヒタイノハ、陪審員ハ陪審中ハ他人ト
交通スルコトヲ得ナイコトニナッテ居リマス、是ハ勿論デア
リマス、陪審事件ガ一日デ片付ク場合ハ差支アリマセヌガ、
一日デ片付カズニ、二日以上ニ亘ル場合ガアル、其陪審員ハ
裁判所ヲ退クコトガ出來ナイト云フコトニ相成ルベキカト
思ヒマス、所ガドウ云フ風ニシテ交通遮斷ニ相成ルデセウ
カ、無論是ハ陪審員ノ施行細則、施行規則勅令、又ハ其以下
ノ規定デ定メラレルコト、在ジテ居リマスガ、併ナガラ兎
ニ角人ノ自由ニ關スル事デアリマスカラ、矢張其性質カラ
云ヘバ、是ハ本法案ニ明ニ御定メニナッテ然ルベキコト、思
フ、ソレハ格別ト致シマシテモ、實際ニ於テドウ云フヤウナ
御取扱ヲ以テ、其數日ニ亘ル陪審中ニ陪審員ノ交通ヲ遮斷
スルカ、而モ身體ノ自由ハ或ル程度マデハ認メテヤラナケ
レバナラスガ、ソレハ本案通過ノ後ニ色々御評議ニ相成ル
デアラウト思ヒマスケレドモ、實際各國ノ實例モアルシ、大
體ニ於テ司法部局ノ御考ハ既ニ定メテ居ルコト、思ヒマス
カラ、其御取扱振ニ付テ一應此際ニ承ッテ置キマス

○林政府委員 其點ニ付テハ、各國ノ制度モ調べ色々考慮シテ居リマス、大體ニ於テハ裁判所ノ構内ニ陪審員ノ宿所ヲ建テマシテ、サウシテ其處デ陪審員ガ泊マルト云フコトニシタイ考ヲ持ッテ居リマス

○作問委員 モウ少シ詳シク御考ニナッテ居ラスノデアリマス

○林政府委員 詳シク云フト、ドウ云フ事ヲ御尋ニナリマスカ分リマセヌガ、陪審員ガ評議ヲシテ答申スルマデハ、外部ト交通シテハナラヌト云フコトハ論ヲ凌タヌノデアリマス、ソレデソレマデハドウシテモサウ云フ場所ニ陪審員ハ留ッテ、サウシテ外部カラノ交通ヲ絶ツニ必要ナル措置ヲ執ル必要ガアルト思ヒマス、ドウ云フ事ヲ御尋ニナルカ、ソレニ依テ御答ヲ致シマス

○作問委員 ソレハ一應分ッテ居リマス、ソレハサウナケレバナラス、ソレ位ノ事ハ質問致サスデモ分ッテ居リマスガ、其外ニ監視ヲスル、唯々宿屋ヘ泊メタケデハ、中ニハ逃ゲテ歸ル者ガアルカ知ラス、人ガ訪ネテ來ル者ガナイトモ限ラス、其監視、ソレカラ又食事等ハドウサレノデアリマス、寢食ノ待遇等モ承リタイ、ソレカラ尙ホソレハ裁判所構内ニ宿舎ヲ一々建テラレルト、全國ノ地方ノ裁判所ニ於キマシテモ、宿舎ヲ一個宛建ルト云フコトニナリマスガ、ソレハ旅宿ノ指定シテ、其特定ノ旅館ニ泊メテ、監視ヲ相當ニセラルルコトニ相成ルノデアリマスガ、豫算ノ關係モアリマセウカラ、其邊モ一應御考ニナッテ居ルト思ヒマス

○林政府委員 今御尋ノヤウニ、裁判所ノ構内ヘ宿舎ヲ必ズ建テマスガ、或ハ一定ノ宿屋ヲ指定シテ、其處ニ宿泊セシムルカト云フ事ニ付テモ、段々考究シタノデアリマス、ドウモ日本ノ宿屋ノ今日ノ狀態ニ於テハ、宿屋ニ宿泊セシメマシテハ、他人トノ交通ヲ全然絶ツ事ハ困難デアリマス、ソレデ當局ノ考ト致シマシテハ、各裁判所毎ニ宿舎ヲ構内ニ建テマシテ、其處ニ滞留セシムル、斯ウ云フ事ニシタイト思ッテ居リマス、隨テ費用ガ掛リマスガ、是ハ何レ御協賛ヲ請ハナケレバナラスコトニナルト考ヘマス、ソレカラ又監視ヲドウスルカ、食事ヲドウスルカト云フコトハ、細カイ事ニナリマスガ、無論外部トノ交通ヲサセナイ爲ニ、相當ノ裁判所ノ職員ヲ配置シマシテ、サウ云フ事ノ監督ヲスルコトハ當然ノ事デアリマス、ソレカラ又食事等ノ事ニ付テモ、陪審員ガ泊リテ居ルノデアリマスガ、相當ノモノヲ給與スルコトモ當然デアリマス、其等ノ事ハ本法ガ決定シタ曉ニ於テ、細カイ規則ヲ立テマシテ、實際ノ要求ニ應ズル考デアリマス

○作問委員 各條項ニ付テノ質問ハ、何レ又次ノ機會ニ於テ御尋致シマス、此程度デ止メマス

○板野委員 簡單デアリマスガ、午前中ニ——私ハ他ノ委員ノ御質問ナリ、政府委員ノ御應答ハ、極メテ注意シテ之ヲ承ッテ譯デアリマスガ、一寸了解ノ出來ナイ點ガアリマス、御伺ヒ致シマスガ、斯ウ云フコトニ歸着ヲ致シマス、此間横田政府委員ノ御答ガアッタト思ヒマスガ、此本案ニ於テハ裁判官ハ事實認定ニ付テハ、陪審員ノ評議ニ拘束ハサレナイト云フ御言葉ト、ソレカラ更ニ斯ウ云フ御言葉モアッタヤウデアリマス、事實認定ノ補助機關トシテ參與セシムルダケダト云フ事、ソレカラモウ一ツハ、此陪審員ノ評議ハ、裁判官ノ事實認定ノ材料ダト云フヤウナ意味デアッタヤウデアリマス、サウスルト全然拘束力ガ無いト云フコトニ歸着致シマス、全然拘束力ガ無いモノナラバ、陪審員ヲ拵ヘテ何ニナル、斯ウ云フ事ニナリマス、全然拘束力ガ無い、ソレデ一面ニハ九十五條ノ如キ規定ヲ設ケテ、裁判所ガ陪審員ノ答申ヲ不當ト認メタルトキニハ、更ニ他ノ陪審員ノ評議ニ付スト云フコトヲ、何等裁判所ヲ拘束スルコトガ無いモノトスルナラバ、何ノ爲ニ陪審員ノ評議ヲ求メルカ、意味ヲ爲サヌコトニナリマス、理論上サウナリマス、尤モ唯々參考ニスルノダ、拘束ハ受ケナイ、斯ウ言フデシマヘバ、ソレナラバ陪審員モ何モアッタモノデナイ、是ハ全然拘束力ガ無いト云フコトニナル譯デアリマセウカ、本案ノ根本ニ關スル事デアリマスカラ、此點ヲ更ニ明確ニ示シ、テ置キタイト考ヘマス

○馬場政府委員 過日來横田政府委員ヨリ御答致シマシタ通りデアリマスガ、只今重ネテノ御質問デアリマスガ、其意味ヲ申上ゲタイト思ヒマス、陪審員ノ事實認定ニ關スル答申ガ、裁判官ヲ拘束セズト申シタ意味ハ、陪審員ガ例ヘバ犯罪事實ナシ、斯ウ云フ答申ヲシタナラバ、其答申ヲ法律上ノ效果トシテ、當然裁判官ガ之ニ拘束セラル、斯ウ云フ意味ニ於テノ拘束ハナイ、併ナガラ裁判官ガ事實認定權ヲ行フニ付テハ必ず陪審員ノ意見ヲ微サナケレバナラス、サウシテ事實ノ關係ニ付テハドウナルカト云ヘバ、陪審員ガ犯罪事實ナシト云フコトヲ承認シタ場合ニ於テ、裁判官ハ勿論法律的ノ拘束ハ受ケマセヌケレドモ、其答申ヲ以テ不當ナリ、斯ウ云フコトヲ積極的ニ認メタ場合ノ外ハ、自ラ其答申ニ拘束セラル、即チ不當ナリト云フコトヲ認メタ場合ニ於テ、其陪審員ノ初メテ意見ヲ聽クコトニナリマス、私共ハ法律上カラ見マシタナラバ、成程直ニ陪審員ノ答申ニ拘束セラル、ケレドモ、事實問題トシテ、實際ノ陪審員ノ答申ニ拘束サレヌノデアリマス、而シテ他ノ陪審員ノ意見ヲ聽ク場合ト云フモノハ、其答申ガ誤ッテ居ル、即チ犯罪アルニ拘ラズ、無シト云フ事ヲ答申シタコトガ、其裁判官一同ノ考トシテ、確信スル場合デナケレバナラスノデアリマス、而モ裁判官ハ犯罪事實アリトシ、陪審員ハナシトシタ場合ニ於テ、若シ裁

判官ガ獨斷ニ、直ニ自己ノ考ノ犯罪事實アリト云フコトニ判決ヲ出來ルナラバ、是ハ全然陪審員ノ置イタ效果ハナイト思フ、併ナガラ裁判官ハ犯罪事實アリト信ジテモ、陪審員ガ無シト答申シタ場合ニ於テハ、更ニ他ノ陪審員ニ聽カナケレバナラス、ソレヲ二度繰返シ、或ハ三度繰返スト云フコトガ法律上ハ出來ル、併ナガラ凡ソ私共ノ考ヘテ居ル所デハ陪審員ト云フ者モ、相當ノ常識ヲ具ヘタ者ガ出テ來ルト認メナケレバナラス、而シテ同一ノ事件ヲ二度或ハ三度聽イタ場合ニ、陪審員ハ飽迄繰返シテ犯罪事實ナシト云フ事ヲ答申シタ場合ニ於テハ、同時代ニ於ケル常識者ノ判斷ガ、二度モ三度モ同一ノ場合ニ於テ、裁判官ガ之コ實際ニ拘束セラルザルト云フコトハ、私ハ寧ロ想像スルコトガ出來ナイノデアリマス、成程理論上ニ於テハ、法律上ノ理論トシテ、何モ繰返ス、併ナガラ實際上ニ於テハ、二度モ三度モ繰返サレテ答申シタ場合ニ於テハ、裁判官ハ必ず自己ノ考ニ於テ、誤レル所アルコトヲ信ズル様ニナルデアラウ、サウスレバ裁判官ハ自己ノ考ト、即チ陪審員ノ答申ト合致シタ事ニナル、此事ガ妙味ガアルノデハナイカ、即チ成程議會ニ於テ法律ガ數回兩院ヲ通過シタト云フヤウナモノガ、天皇ノ御裁可ヲ經ザルモノハナイト同一デアアラウト思フ、法律的ニ言ヘバ、何回議會ヲ通過セモ、其法律案ハ 天皇ノ御裁可ヲ得ナイモノガアルカモ知レヌ、併シサウ云フ事ハ實際無イト云フコトヲ憲法ハ考ヘテ居ルノデハナイカ、理論上カラ言ヘバ、陪審員ノ答申其モノニ直ニ拘束サレヌケレドモ、實際ノ働ニ於テ、此陪審員ノ制度ニ事實上拘束サレルト云フコトト同ジ結果ヲ見ル、斯ウ信ジテ居リマス

○板野委員 サウスルト結局斯ウナリマスガ、法律上ノ拘束力ハ無いケレドモ、裁判官ノ信ズル所ニ反スル答申ガ、幾度モ幾度モ出テ來ルコトニナル、裁判官モ是ハ自分ノ所信ガ間違ッテ居ッタト自省シテ、事實上ソレニ從フ事ニナルダラウト、ソレデカラ事實自分ガ自省シテ、ソレニ從フコトニナルダラウト、此點ダケデスナ、所謂妙案ハ……

○馬場政府委員 裁判官ノ自省ノ場合モアリマセウ、或ハ陪審員二度更ヘ三度更ヘル場合ニ、陪審員ノ方違ッテ答申スル事ガアル、第一回ノ場合ニ於テ事實無シト答申シ、第二回ノ場合ニハ、事實有リト答申スル、其事實有リト答申シ今ノ御話ニ依ルト、一回一回三回同一ノ答申ニシテ、而シテ裁判官ノ意見ト反スル答申ノアッタ場合ニ於テハ、實際問題トシテハ、裁判官ハ其答申ヲ是ナリト信ズルニ至ルデアラウ、此點ガ陪審員直ニ拘束シナイト云フ點デアル、若シ第一回ナリ、第二回ノ答申デ、法律的ニ必ず拘束サレルト斯ウ云フコトナラバ、事實裁判認定權ト云フモノハ、裁判官

ニ在リト云フ事方言ヘナクナル、即チ陪審ガ事實ノ認定權ヲ持ツノデアル、斯ウ云フ事方前來説明致シマシタ所謂裁判ト云フモノ、即チ司法權ト云フモノニ付テハ憲法上ノ解釋ニ對スル事、若シ事實認定權ト云フモノガ、裁判官ガ持タイナイデモ宜シ、裁判ト云フモノハ事實認定權ヲ包含セズト、斯ウ云フ論ヲ取ルナラバ、無論同時ニ法律的事實認定權ハ關東シテ宜シ、併ナガラ其解釋ヲ取ラザル以上ハ、法律上ノ拘束ヲ直ニスルモノデナイ、斯ウ云フ事ニ立法セザルヲ得ナイノデアリマス、此處ハ憲法ノ解釋如何ニ依テ違テ來ヤウト思フ、若シ世間テ隨分アリマスル憲法論デアリマスガ、事實ノ認定ト云フ事ハ裁判ノ中ニ包含シナイ、裁判ト云フモノハ定マツタル事實ニ對シテ法ヲ解釋シ適用スルノガ裁判ダト、斯ウ云フ憲法論ヲ説キ明シ得ルナラバ、此法案ノヤウナ事ヲスル必要アリマセヌ、併ナガラ其憲法論ヲ採用シナイ以上ハ、此様な法案ノ如キ形ニシテ、飽迄事實ノ認定權ハ裁判官ガ持テ居ル、併ナガラ陪審ノ答申ニ依ッテ、ナケレバ判斷ハ出來ナイ、此程度迄ニ定メルヨリ外途ハ無イト思フ、其點ハ拘束サレル拘束サレナイノ問題ヲ議論スルナラバ法律の直ニ關東サレルノデナイ、斯ウ御答スルヨリ外ハナイ

○板野委員 御趣旨ハ分リマシタ、憲法ノ解釋上、事實ノ認定ガ裁判所以外ノ陪審員ニ在ルト云フコトニナルト、違憲問題ヲ生ズルト云フヤウナ事カラ、法律上ノ拘束力ト云フモノニ付テハ御話ハ能ク分リマシタ、ダカラ違憲論ヲ避ケル爲ニ斯ウ云フ様ニナル、是ハ憲法上已ムヲ得ナイ、已ムヲ得ナイトスレバ、コンナモノガ何ニナリマスカト云フノデス、法律上拘束力ガ無い、アナタノ御言葉ノ意味ハ私モ分リマシタガ、法律上拘束力ガナイノダカラ、何遍デモ評議ニ付シ得ル、結局ハ斯ウ解釋ヲスルダラウ、ドウモ常ニ自分ノ考ヨリハ違フ答申ヲ下ノ陪審カラモシテ來ルノダカラ、是ハ陪審ノ言フ方方宜イダラウト云フヤウナ事デ、遂ニ自信ヲ抛ツヤウナ事方アルダラウ、ダカラ事實上結局拘束サレルダラウト、斯ウ云フ事ニ歸着スルヤウデアアル、ソレデヤ拘束デモ何デモナイ、或ハ人間ハサウカモ知レヌ、五遍モ六遍モ皆ガ反對スルト云ヘバ、是ハ我方考方違フテ居ルカモシレヌト云フ風ニ願ルカモ知レヌ、結局願ルト云フ事ダテラ一縷ノ望ミニスル、頼ミニスル、是方所謂妙用ダト、斯ウ云フ事ニ歸着スルヤウデアリマスガ、結局サウ云フ風ニ承テ宜シウゴザイママスカ

○馬場政府委員 言葉ハドウ云フ風ニナリマスカ知リマセヌガ、裁判官モ相當ノ常識ハマアアルベキモノデアル、陪審モ常識カラ出テ居ル、斯ウ見ナケレバナラヌ、サウスレバ二度モ同一ノ答申ニ對シテ、裁判官ハ自分ガ若シ誤テ判斷シ

テ居ルノデハナイカト云フコトヲ必ズ考ヘル、斯ウ見テ、茲ニ事實ノ拘束ト云フ言葉ガ語弊ガアルナラバドウデモ宜シイガ、事實の陪審ノ答申ヲサレタト云フ事ニナッテ、茲ニ意見ノ合致ヲ見ルダラウ、私ハ斯ウ云フ事ハ強チ陪審問題許カリデナイト思フ、例ヘバ立法權ヲ行フ、斯ウ云フ事方憲法ニ書イテアル、其立法權ハ言フ迄モナク議會ノ協賛ニ於テ行ハル、議會ノ協賛ガアッテ、何回アモ、若シ天皇ノ御裁可ヲ得ナケレバ、法律ト云フモノハ出來ナイノデアアルガ憲法ハ其處マデハ書イテナイ、憲法ニハ必ズ兩院ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ、又政府ノ出サレタ案ガ何通デモ議會ヲ通ルト云フ事ナラバ、結局立法權ヲ行フ機會ガナイガ、ソレハ憲法ニ其處マデハ書イテナイ、即チ其處ノ運用ノ妙ハ云フモノガアッテ、少シモ差支ナク行ハレルト云フ事ト私ハ同様デアラウト思フ、此處ニ拘束力ガアルノデハナイ、天皇ノ出サレタ法律ガアッテ、議會ニ於テ協賛ヲ經ル、又兩院ヲ通過シテ法律ハ、法律のニ申セバ、天皇ヲ關東スル所ハナイ、併シ立法權ト云フモノガ圓滿ニ解決シテ行クノデスカラ、ソレト同ジ此陪審法ノ妙味ト云フモノモ、實際ニ於テ現レテ來ルノデアラウト、斯ウ考ヘルノデアリマス

○板野委員 此九十一條ノ「犯罪事實ヲ肯定スルニ陪審員ハ過半数ノ意見ニ依ルコトヲ要ス」之ハ拘束ト云フ意味ニハナリマセヌナ

○馬場政府委員 是ハ唯犯罪事實ノ肯定ヲスルニハ、國ニ依ッテハ十二人全部ノ議決ヲ要スル所モアリマスガ、我國デハ過半数ノ意見、即チ十二人中七人ノ意見見ダイト云フコトニシタノデ、別ノ裁判官ノ事實認定權ニ關スル問題トハ直接ニ關レナイト思フ

○板野委員 最初法制會議會ニ御諮リニナッテ、サウシテ陪審制度ニ關スル綱領ト云フヤウナモノガ出來、之ニ基イテ司法省ガ案ヲ作ッテ、ソレガ樞密院ニ廻タト云フヤウニ承ッテ居リマスガ、此法制會議會デ出來タ綱領ハ、私他カラ借受ケテ居リマスガ、之ニ基イテ司法省ガ作ッタト云フ草案ト云フモノハ、是ハ頂戴スルコトガ出來マセウカ

○林政府委員 只今御尋ノヤウニ、法制會議會デ綱領ヲ拵ヘ、之ニ基イテ司法省デ立案ヲシテ、ソレカラ樞密院ノ諮詢ヲ經マシテ、此法案ヲ提出スルニ至ッタ大體ノ關係ハ、御尋ノ通りデアリマス、併ナガラ政府ハ今提出シテ居ル法案ヲ適當ト認メテ、御協賛ヲ請ウテ居ル次第デアリマスカラ、其經過後ニ於テ色々現ハレマシタ案ハ、別ニ今日公ニスル必要ガナイト考ヘテ居リマス、併シ御參考ニナルト云フコトデアレバ、或範圍ニ於テ申上ゲルコトハ差支アリマセヌ、今刷ッタモノモアリマセヌカラ、ソレヲ上ゲルコトハ困難デアリマス

○板野委員 ソレデハ此司法省ノ方デ草案ヲ御作リニナリマシテ、サウシテソレガ樞密院ノ方ヘ參ッテ、結局此案ガ出來テ、吾々ノ手ニ在ル案ニナッタト云フコトデスガ、最初司法省ノ方デ綱領ニ基イテ作ラレタ草案ト云フモノト、ソレカラ此法律案ト、何カ根本トカ、綱領骨子ニ付テ、變テ事ガアリマスカ、詰リ草案ト此法案ト

○林政府委員 骨子ニ於テハ別ニ變タト云フ事ハゴザイマセヌ、主ナル點ハ陪審ニ掛ケル事件ノ範圍、ソレカラ次ニハ陪審員ヲ選定スル方法、此二ツノ事柄ガ主ナル事ニナッテ居リマスノデ、根本ノ趣旨ニ於テハ變更ハゴザイマセヌ

○板野委員 是ハ一括シテ御尋致シタガ宜カラウト思ヒマスガ、第四條ニ掲グル事件ニ付テハ、之ヲ陪審ノ評議ニ付セズト云フ規定、此中デ尤モ皇室ニ對スル罪ナドハ、別ニ承ル必要ハアリマセヌガ、内亂、外患、國交若クハ騷擾罪、是等ノモノヲ全部陪審ノ評議ニ付セナイト云フ規定ヲサレマシタ理由、是ハドウ云フ譯デ之ヲ削ルコトニナッタノデアリマスカ、綱領ノ方ニ依ッテ見ルト、是等ノモノハ陪審ノ評決ニ付スル中ヘ入レテアッタヤウデスガ、此法案ニ於テ除カレマシタノハ、ドウ云フ理由ニ基クモノデスカ

○林政府委員 第四條ニ列舉致シテアル犯罪ニ付テ、第一號ハ別ニ申上ゲル必要モナイト思ヒマスガ、第二號ハ内亂罪、外患ニ關スル罪、國交ニ關スル罪、騷擾ノ罪、斯ウ云フモノガ入ッテ居ルノデアリマスガ、要スルニ是等ノ犯罪ニ付キマシテハ、内亂、外患、國交ト云フヤウナ事件ハ、國家ノ重大ナ事柄デアリマスカラ、ドウモ陪審員ガ評議ヲスルニ當ッテ、冷靜ナル判斷ヲ缺クコト云フコトガ、此事件ノ性質上免レナイト思ヒマス、ソレカラ又騷擾罪ナドモ同様デアリマス、陪審員ノ判斷ガドウモ片寄リ勝チナモノデアアル考ヘル、要スルニ此陪審ニ掛ケマスノハ、常識ニ基ク穩健ナル意見ヲ裁判所ヘ提供スルト云フコトガ、一ツノ大ナル目的デアリマスカラ、事件ノ性質ニ依ッテ素人ノ判斷ガ兎角冷靜ヲ缺キ易イヤウナ事件ニ付テハ、是ハ陪審ニ掛ケマス方方宜イト云フサウ云フ趣意デ、第一號ハ除外サレタ次第デアリマス、第三號ノ方ハ之ハ軍機法律ニ關スル特殊ノモノデアリマス、第四號ハ先程モ御尋ガアリマシタガ、今日ノ實狀カラ段々考ヘテ見マシテ、選舉ニ關スル犯罪ニ付テハ、陪審員ガ冷靜ヲ缺イテ、サウシテ無判斷ト云フモノガ、往々當テ得ナイト云フコトガ有勝チデアラウト思フ、ソコデ是等ノ實際ノ事情ヲ十分ニ講究シマシテ、兎ニ角今日ニ於テ之ヲ除外シテ置ク方ガ適當デアラウ、斯ウ云フコトカラ來テ居ルノデアリマス

○板野委員 此綱領ノ第五、第六、第七デスガ、是ナドハドウシタ譯デスカ

○林政府委員 費用ヲ豫納シテ請求スルコトヲ許スカドウ

カト云フコトハ、是ハ餘程問題デアラウト考ヘマス、人ニ依

ッテ其費用ノ豫納ト云フコトガ出來ル人モアリマシ、出來

ヌ人モアリマシ、豫納ト云フコトヲ條件ニスルト、サウ云

フ場合ニ甚ダ穩當デナイ結果ヲ生ズルト云フヤウナコトニ

ナルト考ヘマス、ソコデ本案ニ於キマシテ、或時代ニ司法省

デ立テ法案ヲ改メ、費用ヲ豫納シナイ請求陪審ノ範圍ヲ擴

大シマシタ、其結果豫納陪審ヲ除イタ、斯ウ云フコトニナ

リマス、前ニハ費用ヲ豫納シナイ方ハ短期一年以上ノ犯罪

ニ限ツタガ、之ヲ懲役三年ヲ超ユルモノニ付テ陪審ノ請求ガ

出來ルト云フヤウニ非常ニ擴張マシタ、是ハ非常ニ擴張ニ

ナリマス、サウシテ一方ニ於テ豫納ニ依ルモノハ之ヲ認メ

ナイ、斯ウ云フコトニナリマス

○板野委員 今私ノ御尋シタ費用ノコトデアリマス、費用

ヲ豫納シテ請求シタル場合ハ、之ヲ陪審ニ付シテモ宜ササ

ウナモノダガ、如何デスト承ツタニ對シテ、チヨット少シ分リ

兼タノデスガ……

○林政府委員 サウ云フ事ヲ條件トシマスルト費用ヲ豫

納スル力ノナイ者、此者ハ請求ガ出來ナイト云フ結果ニナ

ルノデ、ドウモ穩當デナカラウト思ヒマス

○鶴澤委員長 一寸私ソレニ付テハ承ツタ所ヲ申上ゲマ

スガ、金ノ有ル者バカリ陪審ノ請求ヲシ得テ、金ノ無イ者ガ

出來ナイト云フコトニナリマス、非常ニ不公平ノ誹ヲ免

レナイト云フ議論ガ、法律制定ノ際ニ相當ニアツタヤウデア

リマス

○板野委員 モウ一ツ、各條ニ亘ルコトハ後ニ譲リマスガ、

過日本會議ノ際ニ、横田政府委員ノ御答辯ニ、經常費ガ三百

五十萬圓位要ルダラウト云フ御答辯ガアツタヤウニ承ツタノ

デスガ、司法省ノ御見込デハ、之ヲ始メルトスレバ、例ヘバ

大正十二年ナラ十二年カラ始メルトスレバ、其時ニ要ル臨

時費ハドノ位ノ御見積リニナツテ居リマスガ

○林政府委員 愈々實施スルコトニナリマス、先ヅ法廷

ヲ造ラナケレバナリマセス、ソレカラ法廷ニ附屬スル建物

モ無論要ル、殊ニ先程申シタヤウナ陪審員ノ泊リマス場所、

之ヲ裁判所ノ構内ニ建テルト云フコトガ必要デアルト考ヘ

マスカラ、其等ノ點ヲ段々調査致シマシテ、目下大藏省ト豫

算ノ計上方ニ付テ交渉中デアリマス、從ツテ今數字ヲ明確ニ

御答スル事ハ出來ヌノデアリマスガ、大體ニ於キマシテハ

三百五十萬圓以上四百萬圓以下位ノ見當デアリマスガ、

臨時費ガ——是ハ一時限リノモノデアリマス、併シ大體ノ

ラ開キマス

午後零時二十四分休憩

午後二時十九分開議

○鶴澤委員長 刑事訴訟法案ノ委員會ヲ開キマス、陪審法

案ハ刑事訴訟法案會議ノ濟ムマデ延會ヲ致シテ置キマス、

第三百六十三條ニ付キマシテ、前會ニ辯論ノ提案ガアリマ

シマシテ、之ヲ一時撤回シテ置キマシタガ、今日更ニ第三百六

十三條ニ付テ、修正案ヲ提出スルト云フコトデアリマスガ

ラ、之ヲ聽キタイト思ヒマス

○鶴澤委員 第三百六十三條ヲ修正致シタイト思ヒマス、本案

ノ三百六十三條ヲ全部左ノ通り修正致シタイ、修正案ハ

「區裁判所ハ上訴ノ申立又ハ判決廢止ノ請求ナキ場合ニ於

テハ判決主文罪トナルベキ事實ノ要旨及適用シタル罰條ヲ

公判調書ニ記載シテ判決書ノ作製ニ加フル事ヲ得第二項

ト致シマシテ「判決廢止ノ請求ハ七日以内ニ之ヲ爲スヘシ」

斯ウ云フヤウニ修正ヲ致シタイノデアリマス

○鶴澤委員長 賛成ガアリマスガ

「賛成」賛成「賛成」呼フ者アリ

○横山(勝)委員 一寸質問致シテ置キマス、第二項ノ判決

廢止ノ請求ノ期間ヲ七日ト限リタルハ……

○鶴澤委員 控訴期間ガ七日デアリマスカラ、ソレヨリ延長

スル必要ハナイト思ヒマス

○横山(勝)委員 控訴ニ關係シテハ必要アリマセスガ、其

後ニ事件ガ起キタ、裁判ノ結果ヲ具體的ニ知リタイト云フ

時分ニ、判決明文ヲ下ダスケレドモ、其公判書ヲ下ダラレマ

スカ、如何デスカ

○鶴澤委員 當然ノ事デス

○横山(勝)委員 ドノ規定カラ當然デスカ

○鶴澤委員 公判調書ノ規定カラ

○横山(勝)委員 ソレカラ、ソレハ區裁判所ノ場合ニ限ッ

テ、判決廢止ノ申請ハ七日ニ限ラレタ意味ト解釋シマス、其

規定ダケデ、地方裁判所以上ノ判決書廢止ガ七日以内ニ出

來ナイト云フ疑ハ起リマセスガ

○鶴澤委員 此場合ニ限ッテ、此條文ノ一項ニナツテ居リマス

カラ、此場合ニ限リ事デアリマス、先キノ文字ヲ少シ變ヘタ

イト思ヒマス、モウ一遍讀ミマス「上訴ノ申立又ハ判決廢止

ノ請求ナキ場合ニ於テハ區裁判所ハ判決主文罪トナルベキ

事實ノ要旨及適用シタル罰條ヲ公判調書ニ記載シテ判決書

ノ作製ニ加フルコトヲ得」斯ウ云フヤウニ致シタイ

○鶴澤委員長 ソレデハ一遍讀ミマス、第三百六十三條ニ

加フルコトヲ得是ガ第一項第二項ハ「判決廢止ノ請求ハ

七日以内ニ之ヲ爲スヘシ」斯ウ云フ案デアリマス

○山移委員 私人罰條ヲ法條ニ變ヘタイト思ヒマス、第何

條ノ何條ニ依リト云フノデアルカラ、何モ罰條デナイ場合

モアル、ソレデ法條ト直シタイ

○作間委員 一寸此修正ニ付テ辯論ニ御尋シタイ事ガアリ

マス、ソレハ調書ハ判事ガ書クノデスカ、調書ノ作製ハ總テ

書記ガヤルノデスカ、書記ヲシテ書カシムルノデスカ

○鶴澤委員 之ヲ書カシムル趣旨ト思ヒマス

○作間委員 サウスレバ調書ノ記載ハ書記ガ爲スノガ原則

デアリマスカラ、矢張書記ヲシテ記載セシメルトシナイト、

判事自ラ調書ニ筆ヲ入レラレルヤウニ解セラレヤシナイカ

ト思フ、若シ多數ノ御解釋ガサウナツテ居テモ、書記ヲシテ

書カシムルト云フコトデアレバソレデ宜イ

○鶴澤委員長 本案ニ付キマシテ、政府委員ノ意見ハ如何

デスカ

○林政府委員 適用シタル法條ト云ヒマス、結局最終ニ

罰ヲ定メタ法條ノミナラズ、其法條ヲ適用スルニ至ル迄ニ、

其筋途トシテ適用致ス法條ヲ包含スルト云フコトニナリマ

ス、斯ノ如キコトハ、簡易ニ事ヲ濟マス趣意カラ此法文ヲ設

ケタ趣意ニ合ハヌコトニナルカラ、結局處罰スル其法文ノ

ミヲ記載スレバ宜イコト、考ヘマス、適用シタル罰條ト

云フ文字ヲ使ッテアルノハ、其意味デアルト解釋シテ居リマ

ス

○鶴澤委員長 政府ハ此修正ニ對シテハ、御同意デスカ、反

對デスカ

○山田政府委員 是ハ之ニ似タル案ガ昨日出マシタガ、區

裁判所地方裁判所ノ區別ナク、此方針ヲ取ラウト云フコト

デアツタヤウニ私ハ考ヘマシタ、所ガ區裁判所ダケナノハ、

寧ロ遺憾デアリマスケレドモ、無キニ勝ルノデアリマス、更

ニ地方裁判所ニ之ヲ擴張メルト云フ論ガ何處カデ起リマシタ

ナラバ、更ニ贊成ノ度ヲ加ヘル次第デアリマス

○横山(勝)委員 更ニ質問ヲ致シテ置キマスガ、或程度マ

デ了解ヲ致シマシタガ、若シ七日ノ期間内ニ裁判官ガ更迭

若クハ死亡シ、若ハ其他絕對ノ故障ガ起ツト云フヤウナ場

合ニハ、事件ハドウ處理スルノデアリマスガ、言葉ヲ換ヘテ

言ヘバ、サウ云フ場合ニハ判決書ノ請求權ガナイノデアリ

マスガ

○鶴澤委員 請求權ハ無論ゴザイマスノミナラズ、轉勤ノ如

キ場合ニ於テハ、矢張轉任判事ヲシテ作成セシメ、死亡ノ場

ハ、更ニ公判ヲ開イテ裁判ヲヤリ返スト云フノデアリマス

デモナイ、本人ガ轉動シタ以上ハ、之ヲ作ルノ方法ハナカラ

コトヲ得「斯ウ云フヤウニ、意味ハ同ジデアリマスガ、文字

○北井委員 此趣意ハ吾々モ相談ラシテヤッタ譯デアリマ

○森山委員 今ノ二項デアリマス、只今ノ條文ニ依ッテ見ル

○鶴澤委員 全體一致デアリマス、ソレデ字句ノ修正ハ

○横山(勝)委員 サウシマスルト、只今ノ如ク修正セラレ

○作間委員 大體被告人或ハ辯護人ガ、參考ノ爲ニ、又ハ別

○鶴澤委員 其修正ノ結果ト致シマシテ、第二項ノ「前項ノ上

○北井委員 私人其積リデアリマス

○鶴澤委員 只今ノ修正デハ、御質問ノヤウナ解釋ガ附キマ

○鶴澤委員 只今ノ修正デハ、御質問ノヤウナ解釋ガ附キマ

○熊谷委員 只今横山君カラ御提出ニナッタ御質問ハ、御尤

○作間委員 大體被告人或ハ辯護人ガ、參考ノ爲ニ、又ハ別

○鶴澤委員 其修正ノ結果ト致シマシテ、第二項ノ「前項ノ上

○熊谷委員 只今横山君カラ御提出ニナッタ御質問ハ、御尤

○作間委員 大體被告人或ハ辯護人ガ、參考ノ爲ニ、又ハ別

○鶴澤委員 其修正ノ結果ト致シマシテ、第二項ノ「前項ノ上

○熊谷委員 只今横山君カラ御提出ニナッタ御質問ハ、御尤

○作間委員 大體被告人或ハ辯護人ガ、參考ノ爲ニ、又ハ別

○鶴澤委員 其修正ノ結果ト致シマシテ、第二項ノ「前項ノ上

○熊谷委員 只今横山君カラ御提出ニナッタ御質問ハ、御尤

○作間委員 大體被告人或ハ辯護人ガ、參考ノ爲ニ、又ハ別

○鶴澤委員 其修正ノ結果ト致シマシテ、第二項ノ「前項ノ上

○熊谷委員 只今横山君カラ御提出ニナッタ御質問ハ、御尤

○作間委員 大體被告人或ハ辯護人ガ、參考ノ爲ニ、又ハ別

○鶴澤委員 其修正ノ結果ト致シマシテ、第二項ノ「前項ノ上

○熊谷委員 只今横山君カラ御提出ニナッタ御質問ハ、御尤

○作間委員 大體被告人或ハ辯護人ガ、參考ノ爲ニ、又ハ別

○鶴澤委員 其修正ノ結果ト致シマシテ、第二項ノ「前項ノ上

○熊谷委員 只今横山君カラ御提出ニナッタ御質問ハ、御尤

○作間委員 大體被告人或ハ辯護人ガ、參考ノ爲ニ、又ハ別

○鶴澤委員 其修正ノ結果ト致シマシテ、第二項ノ「前項ノ上

上告ト云フ事ニナ^レテ居リマス、現行法モ同様デアリマス、ソレハ只今禱君ノ提案デハ、上告モ附帶上告ニシロト云フコトニナリマス

○作間委員 政府委員ニ御尋シマスガ、上告ニ於テモ控訴同様、獨立上告ノ外ニ附帶上告ヲ認メラル、ト云フコトハ、吾々結構デアルト思ヒマスガ、只今ノ上告期間ノ點ダケニ

附帶上告ト云フ事ヲ入レ、バ、ソレデ上告ニ於テモ附帶上告ヲ認メタト云フ趣意ニナレバ結構ト思ヒマス、別ニ注文ノ趣旨ハ、原則トシテ附帶上告ヲ認ムルト云フヤウナ規定

ヲ挿ム必要ハアリマスマイガ、ソレヲ念ノ爲承ツテ置キマス
○林政府委員　此處へ附帶ト云フ文字ヲ加ヘマスト、上告
期間後ニ於テハ附帶上告ガ出來ナイト云フ結果ニナル、ソ

レデ要スルニ附帶上告トナリマス、主タル上告ガ取下ゲ
ラルルト、附帶上告ハ結局消滅スルト云フコトニナリマス、
他ノ條文ニ何ノ影響モ致シマセヌ

○鵜澤委員長　ソレデハ是デ修正ニ對スル全部ハ確定致シマシタ、ソレデ念ノ爲ニ前會ニ整理ヲ委員長ニ一任サレマシタガ、整理ノ結果ヲ報告致シタイト思ヒマス、第二十五

シタル整理ノ結果ヲ報告シタルノ後、第二十一
條ニ第二項トシ左ノ一項ヲ加フ「辯護人ハ被告人ノ爲ニ避
ク申立ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反ス
ルコトヲ得」第三十九條第一項中「下」アルヲ「記別者」

ルコトヲ得ス」第三十九條第二項中「夫」トアルヲ「醜陋者」ト改ム、第八十二條第二項トシテ左ノ一項ヲ加フ、前項ノ規定ハ宣告シタル裁判ニ對スル上訴ノ提起期間ニハ之ヲ適

用セス」第八十六條ヲ左ノ如ク改ム、被告人再處ノ召喚ヲ受ケ故ナク出頭セサルトキハ之ヲ勾引スルコトヲ得、第九十五條中「人相書」トアルヲ「容貌、體格其ノ他ノ徵表」ヲ記載

シタル書面」ト改ム
○横山(金)委員 八十六條中、是ハ一項ハ御措キニナツテ、初メノ召喚ヲ受ケタル被告人ヲ更ニ召喚スト云フコトヲ、

御讀ミニナラナカッタ思ヒマスガ……
○鵜澤委員長 一項ハ斯ウ云フコトニナルノデアリマス、
「被告人再度ノ召喚」受ケ故ナク出頭セサルトキハ之ヲ勾

引スルコトヲ得」
○横山(金)委員 八十六條ニハ「召喚ヲ受ケタル被告人期
日ニ出頭セサルトキハ更ニ之ヲ召喚シ又ハ之ヲ勾引スルコ

トヲ得「トアリマス、ソレヲ今ノヤウニ改メルノデアリマス
 ○鶴澤委員長 一項ハ當然召喚スルコトニナッテ居ッテ、今カ

度再度及召喚狀ヲ出シ、ソレニ應ジナイ時ハト云フコトニ
文章ヲ改メタノデアリマス

○横山(金)委員 八十六條ノ「召喚ヲ受ケタル被告人期日

ニ出頭セサルトキハハ活キテ居リマスカ、活キテ居リマセヌカ

○鶴澤委員長　ソレハ今改メテ直ホシテ仕舞ッノデアリマス、第百十四條中「檢事ノ意見ヲ聽キ」ヲ削リ、第百十五條中「夫」トアルヲ「配偶者」ト改ム、第百十九條第二項第二項ヲ

左ノ如ク改ム保釋責付又ハ勾留ノ執行停止中被告人逃亡シタルトキ、逃亡ノ虞アルトキ、召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セザルトキ、罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ又ハ住居

ノ制限ニ違反シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ解釋、責付又ハ勾留ノ執行停止ヲ取消ス事ヲ得」ソレガ第一項、第二項ハ「解釋ヲ取消ス場合ニ於テハ裁判所ハ檢

事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スルコトヲ得”レガ第百十九條デアリマス、第二百十條三、

ル事ニナリマス、第二百二十七條中「若ハ」トアルヲ「又ハ」ト改メ「又ハ」引狀ノ執行ヲ受ケタル被疑者ヲ受取り「ヲ」削ルコトニナリマシタ、是ハ整理ノ結果、サウナツデ來ルノデア

リマス、第二百二十八條第一項中「若ハ」トアルヲ「又ハ」ト改メ「又ハ」司法警察官檢事若ハ司法警察官ノ命令ニ因リ被疑者ニ對シ勾引狀ヲ發シトアルヲ削リコトニナリマス、第二百

者ニ對シテ急遽ヲ要シ判事ノ勾留狀ヲ求ムルコト能ハザル
 狀ノ執行ヲ受ケタル被疑者ヲ受取リ是ダケノ文言ト勾場
 二十九條第一項中「若ハ」トアルヲ「又ハ」ト改メ「又ハ勾引

合ニ於テ急遽ヲ要シ半事ノ勾留狀ヲ求ムルコト能ハサル
——「場合ニ於テ」カヲ「求ムル」コト能ハサル」ト云フマデノ
文言、ソレカラ「勾留狀ヲ發シ」トアル此文言ヲ削ル事ニナ
リ、第二頁中且書ヲ削余スレバトニナリマス、第三頁中

リマス第二項中但書ヲ削除スルコトニナリマス第三項モ
削除ト云フコトニナリマス、第三百三十一條、是モ削除ニナリ
マシタ、次ノ條カラ以下順次ニ條數ヲ繰上ゲルコトニナリ

マス、第四百九十九條辯護人ノ下ニ辦理士ヲ加ヘマス、第百七十條第一項中「ハ第百二十三條第一項各號ノ場合又ハトアルノヲ削リマス」速捕シノ下ニ「若ハ」トアリマスガ

之ヲ「又ハ」ト改メマス、第百七十四條第三項中「及第百二十
三條第一項第三號乃至第六號ノ規定ニ依リ發シタル勾引狀
ヲ執行スル爲前條ノ搜索ヲ爲ス場合」トアル、是レダケノ文

字ヲ削リマス、第百八十條第一項中「ハ第百二十三條第一項各號ノ場合又ハ」トアルノヲ削リ、ソレカラ「逮捕シ」ト云フ下ニ「若ハ」トアルノヲ「又ハ」ト改メマス、何レモ皆整理

ノ結果デアリマス第百八十七條「辯護人」ノ下ニ「辨理士」ヲ加フ、第二百十四條第一項中「ハ第百一十三條第一項各號ノ場合又ハ」トアル、之ヲ削リマス「逮捕シ」ノ下ニアル「若ハ」

ヲ「又ハ」ト改メマス第二百十五條ヲ左ノ如ク改メマス「檢
事又ハ司法警察官證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ宣誓ヲ爲サ
シムルコトヲ得ス」第二百十五條ヲ斯ノ如ク改メルノデア

リマス、第二百五十五條第一項中「捜査ヲ爲スニ付強制ノ處分ヲ必要トスルトキ」トアルノヲ「捜査ヲ爲スニ當リ罪證ヲ

湮滅シ又ハ之ヲ使用シ難キニ至ル處アルトキ」ト斯ウ改メ
マシタ、ソレカラ「被疑者ノ勾留」トアル文字ヲ削リマス、第
二百五十七條ノ第一項ヲ削除スルコトニナリマシタ、次ニ

ハ第三百七十四條是ハ削除、第三百七十五條削除、次條以下順次ニ條數ヲ繰上ゲルコトニナリマス、第三一十三條第三項「但シ區裁判所ニアリテハ此ノ限リニ在ラス」之ヲ削リ

マス第三百四十一條ヲ左ノ如ク改メマス「裁判長ハ證人ト
ノ他ノ者被_レ告人又ハ或傍聽人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ
爲_ス事ヲ得サルベシト思料スルトキハ其ノ供述中ニテ退廷

セシムルコトヲ得被告人他ノ被告人ノ面前ニ於テ十分ナル
供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料スルトキ亦同シ前項ノ
規定ニ依リ被告人ヲ退廷セシメタル場合ニ於テ共同被告人

證人其ノ他ノ者ノ供述終リタルトキハ被告人ヲ入廷セシメ
供述ノ要旨ヲ告ケヘシ」ト斯ウ改メマシタ、第三百四十五條
第一項第二號中「召喚シ難キト」トアリマスノヲ「訊問ス

ルコト能ハサルトキ」ト改メマス、第三百五十一條第三項ハ
削除、第三百五十三條第二項ヲ左ノ如ク改メマス「検事及辯
護人ハ前項ノ取調ニ立會フコトヲ得、第四百二十四條第一

項中「三十五日」トアルヲ「五十日」ニ改シマス、第四百八十七條第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘラレテ、以下ノ號ヲ繰下
 デルコトニ致シマス即チ加ハル號ノ文章ハ口許并舊實用新

案權、意匠權、又ハ商標權ヲ害シタル罪ニ因リ有罪ノ言渡リ爲シタル事件ニ付其ノ權限ノ無效ノ審決確定シタルトキハ無效ノ判決アリタルトキハ所據ノ文章ニ致シマシタル、第五

ハ無効ノ判決アリタルトキハ規程ノ文章ニ致シマシタ 第五
百三十二條中「之ヲ拋棄シ又ハ」トアルヲ削リマシタ、第
百三十五條中「拋棄若ハ」トアルヲ削リマシタ、ソレカラ
五百三十二條中「之ヲ拋棄シ又ハ」トアルヲ削リマシタ、第
百三十五條中「拋棄若ハ」トアルヲ削リマシタ、ソレカラ

只今此會議ニ於キマシテ第三百六十三條ニ付テ修正サレタル事ハ、既ニ御承知ノ通りデアリマス、此文章ニ付テ字句等ニ修正ガアレバ修正致シマスルガ、是ハ本會議ノ報告等ニ修正ガアレバ修正致シマスルガ、是ハ本會議ノ報告

ノ際御聽取ヲ願ヒタイト思ヒマス、第四百二十六條ニ「附帶」ト云フ文字ヲ入レ、更ニ第二項ノ修正ヲ致シタルコトハ此會議ニ於テ先程明瞭ニナッタコトデアリマス、尙ホ第一百十

九條ニ付テ、文章ニ少シ熟シナイ所ガアルト云フコトデア
リマスカラ、之ニ付テ尙ホ考ヘテ見マシテ、其文章ノ整理ハ
本會議ニ於テ御報告申上ゲルコトニ致シタイト思ヒマス、

御承認ヲ願ヒマス、以上ハ刑事訴訟案ニ對シマスル修正ノ全部デゴザイマス、何レ明日本會議ガ開カレルコトデアラウト思ヒマスルガ、本會議ニ於キマシテ總テ御報告ヲ致ス

コトニ御承知ヲ願ヒマス、尙ホ横山君等カラ少數意見等ガ出テ居リマスカラ、此少數意見ノ要領ハ、本會議ニ於テ述ベラレルコトデアラウト存ジマス、之ヲ以テ刑事訴訟法案ノ

委員會ヲ修了スル事ニ致シマス(拍手)次ハ陪審法案ノ會議ニ移リマス、通告ノ順ニ依リマスト、横山金太郎君ニナツテ

居リマス——横山金太郎君

○横山(金)委員 本案ニ付キマシテハ、他ノ委員諸君ヨリモ質問ガアツテ政府委員ヨリ御答ニモナッテ居ルノデアリマスガ、尙ホ多少疑問ガ起リマス、デ念ノ爲ニ伺ヒマス、大木司法大臣ノ御説明ニ依リマス、我ガ日本ノ國民ニハ、夙ニ立法ノ參與モ許サレテ居ル地方ノ自治行政ニ參與セシムル途モ開カレテアツテ、獨リ司法ノ方面ニ於テ參與サセテ居ナイ、今ヤ日本ノ人文發達ノ趨勢其他ニ鑑ミテ、之ヲ許スベキ機會ニ到達シタカラ、司法制度ノ完備ヲ期スル意味ニ於テ、此案ヲ提出サレタノデアルト申サレタノデアリマス、其趣旨ハ諒シテ居ルノデゴザイマスガ、他ノ委員諸君カラモ既ニ御質問ニナッテ居リマス通り、國民ヲシテ司法ニ參與セシムル實ガ、本案デハ舉ッテ居ラナイト云フ感ジガ深イノデアリマス、即チ其條文ヲ當嵌メテ見マス、九十五條ノ如キ「裁判所陪審ノ答申ヲ不當ト認ムルトキハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス決定ヲ以テ事件ヲ更ニ他ノ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得」即チ如何ニ陪審官ガ熱心ニ其事案ニ付テ審査研究サレマシタ末、案ヲ具シテ所謂答申書ナリモノヲ拵ヘテ出シテモ、之ニハ裁判所ハ獨ラサレナイノデアリマシテハ、少クトモ國民ニ其參與シタル程度ニ於テハ、國政ニ參與スルニ足ルダケノ自主權、即チ權限ガ與ヘテハ、獨リ此司法部内ニ限ッテ其權限ガ認メテナイ、是ハ實際ニ於テ司法ニ參與スルト云フ實ハ、全然此案ニハ備ッテ居ナイノデアラウト思ハレマス、是ハ一體人文ノ發達其他ノ事情ニ鑑ミマシテ、此案ヲ提出シタハ仰シヤイマス、未ダ以テ日本ノ民度ガヨリ以上ニ徹底ノ權限ガ與ヘル事ハ適當デナイ、危險デアル故ニ、民度ニ照シテ此程度ガ宜シイト云フ、吾々カラ申シマス、不徹底ノ規定ガ表レタノデアリマス、又日本ノ國情民度ノ上カラ考ヘレバ、モウ少シ廣イ權限ガ與ヘタイノデアルケレドモ憲法違反ト云フ難關ガアルカラ、此程度ニ止メザルヲ得ナカッタト云フノデアルカ、此點ヲ伺ヒマス

○山内政府委員 陪審法デハ、國民ノ司法ニ參與スルノ實ガ無イト云フ様ナ趣旨カラ出發シタル御質問デアリマスガ、前ニモ申上ゲマシタ通りニ、參與ノ實ガアルノデアリマス、即チ事實ニ於テ陪審員ノ意見ハ、適當ナル場合ニ於テ、適當ナル力ヲ以テ、裁判官ノ事實ニ於テ獨ラスル事ト私ハ考ヘテ居ル、法ハ陪審員ノ決定ヲ以テ裁判官ノ事實認定ノ權ヲ奪ッテ、陪審員ノ答申ヲ獨ラスルト云フ文字ハ用ヒテ居リマセセガ、事實ニ於テハ確ニサウ云フ事ニナルト考ヘテ居リマス、而シテ是ハ憲法ニ牴觸スルカラ、先ヅ斯様ナ生温イモノヲ造ッテ置イタカト云フ御尋ノ趣旨ノヤウデスガ、生温クナ

イト云フコトヲ主張シ置キマス、勿論憲法ノ解釋トシテ裁判所ト云フモノハ——裁判所ノ答申認定權即チ裁判權ハ之ヲ動かサナイト云フ趣旨デアリマス、而シテ政府ノ取ル憲法解釋ハ、前ニ横田法制局長官カラ言ハレマシタ通り、事實ノ認定ハ矢張裁判所ノ一デアルト云フ解釋ノ上ニ立ッテ居ルノデアリマス、サウ云フ次第デアリマス、形式上、事實認定權ヲ裁判官カラ奪ッテ、陪審員ニ與ヘルト云フコトハ、此案ノ趣旨デハナイノデアリマス、人文發達セザルガ故ニ、サウシテ置タト云フ譯デモアリマセヌ、併ナガラ將來ハ之ヲドウスルカト云フ問題ハ、未來ノ問題デ豫言スルコトハ出來ヌノデアリマス、此規定ガ適當デアッテ生温クナク、參與ノ事實ハ舉ッテ居ルト云フ結果ノ下ニ案ヲ提出シテアルノデアリマス

○横山(金)委員 續イテ御尋シマスガ、只今ノ政府委員ノ御答辯ニ依リマス、參與ノ實ハ舉ッテ居ル、必ズシモ參考機關デナクシテ、ソレ以上ニ權威ガアルト云フ御答デアリマス、此點ハ横田法制局長官ガ前會ニ於テ御答ニナッテ居ルトコロデアリマス、仍テ長官ノ御答ニナリマシタ一節ヲ摘讀致シマス「現在ノ憲法ノ解釋ニ有力ナル部類ニ於テ、非常ナル反對ガ起リテ來ル、此反對ハ抗議性ヲ持ッテ居ル、此點ハ避ケナクレバナラス」是ハ只今ノ司法次官ノ仰シヤタ事實ノ認定ガ裁判所ノ一部ト云フコトガ現レテ居ルノデアリマス、同時ニ陪審ノ評議ト云フモノヲシテ威力ナカラシムルト云フコトハ、本案制定ノ大精神ニ違反ナル、本案ハ陪審ノ意見ハ背反シテ裁判所ノ事實ノ認定ガ出來ナイト云フ組立テニナッテ居ル、裁判所ノ意見ヲ以テ陪審ノ意見ヲ無視スルコトハ出來ナイト同時ニ、陪審ガ裁判所ヲ常ニ拘束スルコトハ出來ナイ此中間ノ性質ヲ取ッタコロノ本案ガ最モ妙用ガアルノデアリマス、其中デ私ノ疑ヲ持ツノハ、横田法制局長官ガ御答ニナッタコト、矢張り同ジ點ニ於テ疑問ガアルノデアリマス、此ニ於テ本案ハ陪審ノ意見ヲ裁判所ガ事實ノ認定ガ出來ナイ組立ニナッテ居ルト云フ法條ハ、此陪審法ノ何レノ部分ニ求メテ宜イノデアリマス、先刻申上ゲマシタ如ク、九十五條ハ不當ノ認ムルトキハ他ノ陪審ノ評議ニ付スルコトガ出來ルト云フ規定ガアルノミニシテ、陪審ノ意見ニ背反シテ或態度ヲ取ルコトハ出來ナイト云フ規定ヲ見出スコトガ出來ナイノデアリマス、此點ニ付テ御示シテ願ヒマス

○横田政府委員 横山君ノ御質問ニ御答致シマスガ、事實上ノ方面カラ前ニハ説明致シタノデアリマス、詰リ陪審ノ答申ヲ一回若クハ二回三回四回ト更新スルコトハ出來マス、此陪審ノ答申ヲ無視シテ、サウシテ裁判所ガ獨斷デ裁判

スル事ガ出來ナイ、其意味ヲ申シタノデアリマス、詰リ陪審ノ答申ト裁判所ノ事實認定ガ一致シナクレバ此事實上ノ判斷ガ出來ヌ、其意味ヲ強メテ言ヘバ、陪審ノ答申ニ背反シテハ、事實上ノ判斷ハ出來ヌ、斯ウ云フ事ヲ言ヒ現シタノデアリマス、法律ノ正面カラ見ルト、山内次官ガ御答ニナッチャウニ、事實上ノ判斷ハ裁判所ノ職權デアル、併シ其實質上ノ判斷ヲスルニハ、陪審ガ法定陪審請求判斷ノ事件ニ付テハ、陪審ノ答申ヲ待タナクレバナラス、偶ニ裁判所ノ事實ノ判斷ト陪審ノ答申ト合致セザルトキハ、更ニ陪審ノ答申ヲ求メナクレバナラヌガ、其陪審ノ答申ヲ待タズシテ、裁判所自ラ勝手ナ判斷ヲスルコトハ出來ナイ、茲ニ威力ガアル、サウ云フ意味デアリマス、コレハソレデ十分威力ガアルト思ヒマス

○横山(金)委員 ソレデハ重テ伺ヒマス、サウスルト裁判所ノ意見ニ合致セズ、陪審ノ答申ガ、幾度更ヘテモ同ジ答申ガ出テ來ルトキハ、ドウナルノデアリマスガ

○横田政府委員 ソレハ大分議論ガアツタノデアリマス、法制審議會ニ於テモ、樞密院ニ於テモ、議論ガ出タノデアリマスガ、是ハ他ノ法律ニモアルコトデアリマスガ、サウ云フ場合マデモ突キ詰メテ規定シナクとも、自カラ實際ノ運用上、解決ガ付クデアラウ、本會ニ於テモ申上マシタガ、例ヘバ法律ニ於テ兩院協議會ヲ開イテ、其協議會ハ一ノ法律案ニ付テ意見ガ合致シナイ、特ニ之ヲドウスルト云フ規定ハ無イガ、是ハ其様ナ事ガ度重ナレバ、自カラ上下兩院ノ機關ハ互ニ反省シ協調スル、人間ト云フモノハ、反省協調スルト云フ性格ヲ有ッテ居ルモノデアル、其意味ニ於テ馬場政府委員カラモ御答シタヤウデアリマスガ、陪審ト云フ機關ト裁判所ト云フモノト、判斷ヲ異ニスルト云フ場合ニハ、自カラ兩方デ自己ノ足ラザル點ヲ發見シテ、サウシテ自己反省ノ結果、協調ガ生ジテ來テ歸一スルモノデアル、斯ウ云フ風ニ法律ハ見テ居リマス、先ヅ斯ウ云フ程度ニシテ、突止メタ程度ヲ置カナイデモ、此運用ハ行クモノト見テ居リマス、殊ニ又斯ウ云フ場合ニ、陪審ト云フ事實認定ノ補助機關ト云フモノト、裁判所ト云フモノト、ドデカニ威力ヲ持ッテ、二度三度ヤッテ見テ、ドデカガドウト定マラス時ハ、片方ノ斷定ニ委シテシマフト云フヤウニ極メルト云フコトハ、二個ノ獨立シタル意思ヲ表示スル機關ヲ置ク精神トシテモ面白クナイ、或ハ又之ヲ別個ノ機關ニ裁判ヲサセルト云フコトモ、二個ノ働キヲ以テ協調ニ依ッテ事實ノ判斷ヲサセルト云フ、此立テ方カラ行クト云フト、之ヲセヌ方ガ運用上宜シイモノデアル、斯ウ立案者ハ考ヘタ、此點ハ大分色々ノ法律家實際家ト云フ者ガ、法制審議會ニ居リマシテ、大分採メタ問題デアリマシタガ、段々研究ノ結果、是ガ宜カラウ、斯ウ云フ

コトニスレバ、幸ニ此法條ヲ繼マリマスレバ、日本憲法ノ多數ノ解釋ニモ合致シテ、憲法改正等ト云フ事態重大ナル手續ヲ經ズシテ出來ル、斯ウ云フ意味カラ立案致シマシタ、此程度ニ於テ先ツ國民ハ最初ノ仕事デアラカラ満足シテ行ク、斯ウ云フ心持テ出來テ居リマス

○横山(金)委員 只今事例トシテ御引キニナリマシタ兩院協議會ノ場合ハ、私ノ考デハ協議ガ成立シナカッタ時ニハ、其案ハ自ラ不成立ニナッテ居ルヤウニ思フノデアリマス、又實際ニ於テハ、妥協政治ト云フモノガ、是迄屢々行ハレテ居リマスケレドモ、又或場合ニ於テハ、同意セザルコトガ所謂貴族院ノ修正ニ同意セザルコトガアッテ、不成立ニ終ッテ居ルト云フコトガアル、此ニ於テカ始メテ運用ト云フモノノ上ニ妨ナキヲ得タノデアリマス、若シ只今長官ノ御説明ノ如ク、度々陪審ノ評議ニ協議ヲ缺イタ場合ニ、成程人間ト云フモノハ血モアレバ涙モアル、感情ノ動物デアリマスカラ、自然ニ協調ヲ保ツコトガ出來ルコトガアルカモ存ジマセヌガ、是ハ其協調ヲ保チ得ル保チ得ナイト云フコトハ、其ニ絕對的ノモノデハナイ、議論ノ上カラ見マシテモ、實際ノ上カラ見マシテモ、共ニ協調ノ保チ得ナイ場合ガアラウト思フ、サウ云フ時ニハ、丁度走馬燈ト同ジヤウニ、同ジ事ヲ繰返シテ、事件ノ終局ノ期ガナイ事ニナリハシナイカト思ヒマス、左様ナル場合ニハ如何ナル態度ニ出テ、此結局ヲ結ベハ宜シイノデアアルカ

○横田政府委員 兩院協議會ノ場合ニ、協議繼マラザル時ハ、其法律案ト云フモノハ不成立ニナリマス、其法律案ガ國家ノ大體ニ於テ必要ナコトデモサウ云フコトガアル、斯ウ云フ事ノ例ニ引イタノデアアルガ、今横山君ノ御心配ニナッテ様ナ事項ガアレバ、此法案ニハソレニ付テノ救済ノ途ハ付ケテナイ、是ハ例ヘバ例ヲ側カラ引イテ見ルノモオカシヤウデアリマスガ、例ヘバ亞米利加ノ上院ニ於テハ、條約ノ批准權ヲ有ッテ居ル、サウシテ行政ヲ總括スル者ハ大統領デアアル、條約ノ締結モ大統領ガアルノデアアル、所ガ之ニ關シテ上院ガ否決シタ場合ニ於テハ、之ヲドツカニ判斷スル機關ガナイ、斯ウ云フ様ナ場合ガアルノデアリマスガ、サウ云フヤウナ工合ニ出來テ居ル、其場合ニ付テノ救済ノ規定ト云フモノハ之ニハナイケレドモ、私ガ前段申上ゲタ事項ニ依ッテ、運用ニ依ッテ行ク、法律ハ種々ノ場合ヲ想像スレバ澤山アリマスガ、例ヘバ大臣ノ副署ガ出來ナイ、勅令ヲ出ス時ニ副署スル大臣ガナカッタト云フヤウナコトヲ想像スルト、副署ノ規定ナドト云フモノモ、屢々副署ヲ拒ム者ガ出來テ來タ時ニ困ル、併シサウ云フ場合ニ救済ノ途ハナイケレドモ、實際ハ運用セラレテ行クモノデアアル、斯ウ云フ風ニ立案者ハ見込ンダノデアリマス

○横山(金)委員 益々疑ガ深クナッタガ、法定陪審ノ場合デモ、請求陪審ノ場合デモ、一度陪審ト云フ制度ノ運用ヲ促スコトニナリマスレバ、裁判所ハ何トシテモ事件ヲ整理シナケレバナラス、終結ヲ告ゲナケレバナラス、其時ニハ幾度陪審員ノ任命ヲ更ヘマシテモ同ジデアッテ、裁判所ノ意見ト協調ヲ保ツコトガ出來ヌ、斯ウ云フ場合ニ於テハ、或ハ恐レルノデアリマス、裁判所ハ陪審員ノ意見ヲ棄テテ、獨斷專行的ニ裁判ヲナスコト云フコトガアリハシナイカ、固ヨリ立法ノ精神ト立案者ノ御説明等ハ、有力ナル資料トシテ參考ニ供スルノデアリマスケレドモ、凡ソ法律ノ精神意義内容等ヲ解釋スル場合ニハ、法文ノ上カラシナケレバナラスノデアリマス、只今仰ッシヤルヤウナコトヲ承テ置キマシタ所デ、此陪審法ノ上ニ私ガ今起シタヤウナ疑問ヲ生ズル條項ガナイト云フコトニナレバ、自然ノ結果トシテ陪審ノ答申ハ如何様デアッテモ、ソレガ不當ト認ムル時ハ、再ビヤラシテ見デモ、之ヲ以テ裁判所ノ意見ト協調ヲ保テヌト云フ曉ニ於テハ、裁判所ハ裁判所ノ獨斷ヲ以テ裁判ヲナスコト云フコトニナルノデアリマセウ、益々陪審ト云フモノノ權威ガ保テナイコトニナリハシナイカト云フコトヲ憂フルノデアリマス、ソコデ此疑問ヲ發シタノデアリマス

○馬場政府委員 其御疑ハ、法文ノ九十五條、九十六條ヲ篤御覽ニナレバ、解ケヤウト思ヒマス、即チ九十五條ニ依レバ、陪審ノ答申ヲ不當ト認ムル時ハ、更ニ陪審員ノ評議ニ付スルコトガ出來ルトアリマス、是ハ陪審ノ答申ヲ不當ト認メザル場合ニハ、陪審ノ答申ハ採擇セザルヲ得ズトモ讀メル、要スルニ九十六條ニ依ッテ陪審犯罪構成事實ヲ肯定スル答申ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所前條ノ決定ヲ爲サザルトキハ、即チ他ノ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ決定ヲナサナイ場合ニ於テハ、即チ犯罪事實ノ肯定デアリマスカラ、其場合ニハ檢察ハ適用スベキ法律及刑ニ付テノ意見陳述ガ出來ルト云フコトニ出來テ居リマス、陪審ノ答申ヲ不當ト認メタ時ニノミ、陪審ノ何度デモ繰返ス、陪審ノ答申ヲ相當ト認メタ場合ニ於テハ犯罪構成事實ナシトスル、相當認メタ場合ニハ最早無罪ノ判決ヲスル事ニナル、犯罪構成事實ヲ肯定スル事實ヲ相當ト認メタ時ニ適用スベキ法律及刑ニ付テノ檢察ノ陳述ト云フ事ニナル、是ハドウ云フ方法ニ依リマシテモ、即チ裁判官ノ考ヘテ居ル所ノ事實ノ認定ト、陪審ノ答申ト合スルト云フコトデナケレバ、犯罪ノ有無ヲ決メルコトガ出來ナイノデアリマス、先刻來御議論ヲ伺ヒマスルト何回デモ意見ガ違フタラドウスル、結末ガ付カヌ、裁判ガ下セヌデハナイカト云フヤウナ御議論ノヤウニ拜聴シマシタガ、成程法律的ニ想像スレバサウナルカ知レマセヌガ、併シ凡ソ世ノ中ノ事ハ、唯、理想的想像力デ行キマスルト、日本

ノ憲法ナドハ、非常ニ不完全ナモノニナッテ來ル、憲法ニ後始末ノ付イテ居ナイモノガ多アルノデアリマス、例ヘバ其一例トシテ先刻長官カラ申シタノデアリマスガ、詰リ立法權ヲ行フ法律ヲ制定スルト云フコトガ必要デアアル、又立憲國ニ於テハ、法律ナクンバ今日ノ統治ガ出來ナイ、然レニ政府ノ提出シタ法律案ヲ、何度デモ議會ガ協賛シナイ場合ニ、憲法ニドウ云フ救済方法ガ書イテアルカト云フ、書イテナイ、ソレハドウ見テアルカト云フコトハ、サウ云フコトハ想像ノ上デハアリ得ルケレドモ、實際問題トシテ無イ云フヤウニ見ネバ解釋ガ出來ナイ、ソレカラ國務ニ關スル詔書ニハ、總テ國務大臣ノ副署ヲ要スルコト云フコトガ憲法ニ書イテアリマス、勅令其他ノ行政權ヲ行フニ必要ナル文書ハ、副署ヲ要スル、ソレヲ國務大臣ガ副署ヲ拒ンダラドウスルカ、排斥スル、スルガ、更ニ出テ來テ又拒ムト云フ事デアッタラ、天皇ノ行政權ガ行ハレヌコトニナルカラ、ソナナ事ハ無イ、ソナナ事ハ想像デ、唯理論的ノ想像ヲ退マシウレバアルケレドモ、此場合ハ何遍カ國務大臣ガ副署ヲ拒ンダ時ト同ジデアッテ、凡ソ裁判官モ相當ノ常識ガアリ、陪審員モ常識ノアル、同ジ時代ニ生レテ、同ジ常識ヲ持テ居ルトスレバ、其意見ガ何レノ時ニカ變ルモノデアルト云フコトヲ斷定シテ宜イト思フ、之アルガ故ニ、憲法ニハ後始末ヲ付ケテナイモノガアル、他ノ法律ニモ幾ラモアル、之ハ想像ニ過ギルカ知レマセヌケレドモ、選舉法ナドニ於テ、町村制デモラドウスルカ、選舉權ヲ行ウテ居ル場合ニハサウ云フ事ハ無イケレドモ、想像スレバアリ得ルノデアアル、ケレドモ其後始末ガ無イト記憶シテ居ル、サウ云フ問題ガ幾多アルケレドモ、法律ガ後始末ヲ付ケテ居ラヌデモ宜シイト云フコトハ、此陪審バカリニ限ッタコトデハナイト思ヒマス、成程二三サウ云フ意見ノ違フコトハナイトハ申上ゲヌガ、何遍繰返シテモ意見ノ纏リナイ時ニハ、其時ハドウスルカト云フコトニ付テ、始末ヲ付ケテ行ク必要ハナイ、ソレデ立派ニ運用サレルト思ヒマス

○横山(金)委員 確メテ置キマスガ、私ノ今發シマシタ幾度モ繰返スト云フコトハ、是ハアリ得ルコトデ、又幾度繰返シテモ意見ノ纏リナイト云フコトモアリ得ルコトデスガ、是ハ御肯定ニナリマセヌカ、其次ハサウ云フコトニナレバ、陪審法ニ對スル一種ノ合理觀トシテ、其點ガ理論ガ一貫シナイト云フ、斯様ナ場合ガ出來ルノデアリマスガ、是モ自然御認メニアルカ、ソレカラ今實際ノ場合ニ於テハ、左様ナ事ハアリ得ベキ事デハナイガ、是モ一應ノ御説デゴザイマスガ、殊ニ最後ニ選舉ノ場合ヲ御引キニナリマシタ、選舉ノ場合ノ如キハ、法定數ガ規定サレテ居リマシテ、最少限度

ニ決メテアル、左様ノ場合ヲ想像シテ、其手當ヲシテ居ルノ
デ、若シ法定數ニ足ラナカッタラバ、更ニ選舉ヲ仕變ヘル
ノデアル、殊ニ選舉ナドハ隨分憲法ガ行ハレマシテカラ今
日ニ至リマスルマデ、餘程年處ヲ經テ居ルケレドモ、實驗上
カラ其變ノ無イト云フ事柄ハ、斷言シ得ラレマスケレドモ、
本案ハ現ニ横田法政局長官方度、繰返シマシタガ如ク、新シ
イ試ミデアルガ、其結果ハ如何ニナルカト云フコトガ分カ
ラヌカラ、先ヅ此程度ニ止メルノデアルト御仰シヤル位、極
メテ新シイモノデ、横田長官ノ言葉權藉リテ言ヘバ、司法制
度ノ一大革新デアル、其一大革新デアル此法律案ガ、動モス
ルト向カラ外レテシマウト云フヤウナ、極メテ不安心ナ狀
態ガ此法案ヲ議スル場合ニ於テ浮ビ來ッテ居ルノデアル、之
ガ一度成案トナッテ國民ヲ驅束スル力ノ生ジタ場合ニハ、解
釋問題トシテハ如何様ニモ出來マスケレドモ、立法行為即
チ創設ヲスル場合ニ於テ、此懸念ガアルカラ、今少シ徹底
的ニ進メテ、國民ヲシテ此疑惑無カラシメル程度ニマデ
解セシムルコトガ至當デハナイカト思ヒマス、此點ニ付テ
更ニ御聞申シタイ

○馬場政府委員 本案ハ無論陪審ノ答申ト云フモノガ、一
度限リデ必ズシモ裁判官ノ意見ト一致セスト云フコトハ、
之ハアリ得ルト思ヒマス、故ニ一度 人誰カ過チナカラ
ンヤト云フコトガアリマスカラ、陪審ノ答申ガアル場合ニ
於テ、誤ラタト云フコトガアリ得ルカモ知レナイ、少クトモ
裁判カラ見テ、自分ノ意見ト違フコト云フ場合ニハ、更ニ陪審
ニ掛ケルト云フ事ガ生ジナイト云フコトハナイ、併シ貴方
ノ御想像ニナル如ク、何遍掛ケテモ陪審員ノ意見ト裁判ノ
意見トガ違フコトハ、之ハ所謂法律的ニ云フ想像デアッテ、
法案其モノノ實行上起ル想像トハ思ハレナイ、事實問題ト
シテハ、左様ナコトハ起ラヌ、斯ク私ハ斷言スル、故ニ此法案
ガ、未ダ會テ兩院ヲ通過シタ法律デ御裁可ヲ得ナカッタト云
フコトハナイ、併ナガラ政府案トシテ出シタモノガ、貴衆兩
院同意ヲ得ヌコトハ一度ナラズアッタノデアリマス、併ナ
ガラ二度三度サウ云フコトヲ繰返シタト云フコトハ、極メ
テ稀デアリマスカラ、實行論トシテハ、サウ云フ想像ノ必要
ハナイ、唯法律家ガ、法律上ノ論理ヲ弄ブト云フト語弊ガア
ルカ知レナイケレドモ、論理ヲ逞シク想像スレバ、サウ云フ
事ハ無イトハ言ヘヌガ、一般ノ法律ハ救済ヲ設ケテナイ所
ヲ以テモ、單純ナル法律ノ想像デアラウト斷言シテ宜カラ
ウト思ヒマス

○横山(金)委員 先程馬場政府委員ノ説明ニ於テ、九十六
條ニ於テ陪審犯罪云々トアリマスガ、若シ陪審ガ犯罪構成
事實ヲ肯定シナイ答申ヲナシタル場合ニハ、檢事ハドウナ

サイマスカ

○馬場政府委員 犯罪構成事實ヲ肯定シナイ時ニハ、無罪
ノ場合デアアルカラ、檢事ガ適用スベキ法令トカ刑ノ問題
ヲ存シナイ譯デアリマス、ソコデ無罪ノ言渡ヲ爲スコトニ
取掛ル譯デアリマス

○横山(金)委員 私人陪審法ト云フモノヲ運用スル經驗ガ
ナイカラ疑ガ起ルノデアリマスガ、普通ノ公訴即チ公ノ訴
ヘノ場合ニ於テハ、公判ノ事實ノ審議ヲ終ルト、先ヅ檢事ガ
事件ニ對シテ意見ヲ陳ベ、法律ノ適用ニ依テ刑ノ量定ヲ陳
述スルコトニナッテ居ルノデアリマス、陪審制度ノ場合ニ於
テハ、實際上ニ於テハドウナルノデアリマス、此點ヲ伺ヒタ
イ

○林政府委員 御尋ノ點ハ、馬場政府委員カラ御答シタ通
リデアリマシテ、陪審ガ犯罪構成事實ヲ否定スル答申ヲ致
シマシテ、裁判所ガソレヲ不當ト認メナイ、斯ウ云フ場合ニ
ハ、無罪ノ判決ニ必然的ニ歸著スルノデアリマス、最早何等
ノ手續ヲ經ズシテ、無罪ノ判決ヲ宣告スルコト云フ、斯ウ云フ
趣旨デアリマス

○横山(金)委員 サウシマスルト、陪審ノ答申ト裁判所ノ
意見ノ合致致シマシタ場合ハ、當然檢事ヲ驅束シテ、刑事訴
訟法ノ特例ヲ爲スト考ヘテ宜シウゴザイマスカ

○林政府委員 左様デアリマス

○横山(金)委員 分リマシタ、今ノ點ハソレ以上ハ意見ノ
相違ニナリマスカラ申シマセヌ、唯私ノ此案ニ付テ起リマ
シタ感想ハ、如何ニモ陪審法ト云フモノヲ作ラル、ニ急ニシ
テ、其内容實質ノ攻究ヲ爲ストコトデアリマセウケレドモ、此
適用ノ結果トシテ、及ボス所ノ效果ト云フモノニ、餘リ注意
ヲ拂ハレナカッタモノデナイカト云フ感シガ起ッテ仕方ガナ
イソレハ意見ノ相違デゴザイマスカラ、サウ云フ場合ガ起
ラスト仰シヤレバソレ迄デアリマスガ、私ハ生キタ人間ノ
仕事トシテハ、ドウシテモサウ云フ場合ガ起キテ來ル、來タ
時分ニハ忽チ其措置ニ困ルベキ情勢ヲ產出スト云フコトヲ
信ズルノデアリマス、ソレハソレト致シマシテ、ドウモ左様
ナ不徹底ナル法案ト云フモノガ、畢竟横田法政局長官ノ本
會ニ於ケル御説明ノ通り、英吉利、佛蘭西、獨逸、奧太利ト云
フヤウナ、總テ外國ノ立法例ヲ御參照ニナリマシテ、御作リ
ニナリマシタ結果トシテ、ドウモ他ノ立法制ニハ判定ト云
フ言葉ヲ使ッテ居ル、少クモ認定ト云フ言葉ヲ使ッテ居ッテ、
法律ノ執行共モノニ決定的ノ意味ハ表明サレテ居ルノデア
リマス、本案ハ評決トアッタモノスラ評議ト爲サレタ、御説
明ヲ承リマスレバ、評決モ評議モ何等意味ニ於テ違フ所ハ
ナイ、是ハ一應諒シマスケレドモ、ドウモ其陪審員ノ作リマ
シタ答申ト云フモノノ上ニ、結局力ヲ持タシメナイト云フ

様ナ結果ニナル、斯様ナ結果ヲ招徠致シタノハ、即チ陪審法
案ヲ作ッテ、國民ヲシテ司法ニ參與セシムルノデアリ、斯ウ
云フ意味ニ於テ法文ノ上ニ現シタ拵ヘラレタヤウニ思ヒマ
スガ、是ガ即チ弊ヲ產出ス本デ、モウ一層徹底的ニヤレバ、
憲法ニ違反スル、頑迷不靈ノ判官ガアッテ、餘儀ナク此ニ至
ツタノデアアル、之ガ實相ヲ語ルモノデハナイカト思フ、御差
支ナケレバ或程度マデ實ハ眞相ヲ御示シテ願ヒタイト考ヘ
ルノデアリマス、ソレカラ尙進ンデ、若シ今仰シヤル様ナ意
味ト致シマシテモ、憲法ノ二十四條ト五十八條ノ二項ヲ見
マスルト云フト、日本ノ憲法デハ、法律ニ定メタル裁判官ノ
裁判ヲ受クルコトヲ得ル權利ガ國民ニ與ヘラレテアリマス
ガ、苟モ此裁判ト云フ文字ヲ、法政局長官ヨリ御説明ニナッ
タ如ク、一定ノ事實ニ向ッテ法律ヲ適用シ、闡明スルコトニ
御理解ニナレバ、外國ノ立法制ノ如ク、陪審員ノ答申ヲ以テ
裁判官ヲ驅束シテ、何等違反トハナリマセヌ、併ナガラ若シ
其解釋ヲシツ、事實ノ認定モ——認定アッテ初メテ法律ノ
適用ガ起ルノデアリマシテ、之モ亦裁判ノ一部ヲ形成スルモ
ノデアアル、此意味ニ於テ陪審法案ハ憲法トノ調和ヲ取ッタ
デアルガ、此見地ヨリ解釋ヲ致シマスルト、ドウモ答申ト云
フモノガ、實際裁判官ヲ驅束スルカシナイカト云フコトハ
知リマセヌガ、陪審員ガ事實證據ヲ調べ研究ノ末、斷定的ニ
此見解ヲ取ッテ差支ナイノデアリマスガ、認定ヲシナケレバ
答申ト云フノハ出來ヌノデアアル、是ハ恐クハ矢張他ノ鑑定人
ナドガ或ル鑑定ヲシマスル場合ニ於キマシテモ、意見ヲ述
ベル場合ニハ、鑑定ヲ致シテ意見ヲ定メルコトニ相成ッテ居
ル、而シテ此鑑定ト此答申ト云フモノノ上ニ於テハ、鑑定ハ
即チ參考資料デアアルト云フコトニ付テ、是ハ無論御異存ノ
ナイコトト思フ、御説明ニ依レバ、此意見ニハ、即チ陪審員
ノ意見ト云フモノヲ排除致シテハ、裁判ガ出來ナイト云フ
ノデアアルト云フ御見解ニ力ガアルモノトスレバ、普通ノ鑑
定トノ間ニ自ラ區別ガアル、縱シ裁判官ヲ驅束セストモ、矢
張裁判官ノナス仕事ノ一部ヲ擔任スルコト云フ意味ニ於テ、
自ラ憲法違反ニナリハシナイカト、斯ウ云フ考ガ浮ンデ來
ルノデアリマス、無論日本ノ刑事訴訟法ニハ、豫審判事ヲシ
テ罪トナルニ至ルベキ證據ガアルカナイカト云フ事ヲ認メ
ラレテ豫審ガ決定ニナッテ居リマスガ、一ツノ裁判ノ一ノ形
式ヲ捉ヘテ、而シテ此豫審判事ノ蒐集シタル證據ノ結果公
判スル判事ハ決シテ驅束サレマセヌ、裁判ト云ヘバ、日本デ
ハ判決決定及ビ命令ヲ含ムコトニナッテ居リマス、從ッテ法
律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルコトヲ、一方ニ於テ奪
ハル、ト云フコトニナリマスガ、是デモ憲法違反ニナリハ
シナイカ、此點ニ付テ伺ヒタイ

○横田政府委員 第一點ハ、何カ此陪審ニ對シテ一種固陋

ノ考有テ居ル思想ニ壓セラレテ、サウシテ斯ノ如キ陪審法案ヲ提出ニナツトデナイカト云フ御尋デアリマシタガ、サウデアリマセヌ、是ハ前段ニ申上ガタ通り、一部ノ憲法學者ガ言フテ居ル所ノ裁判ナル意義ヲ、法律ノ適用闡明——確定セル事實ノ上ニ於ケル法律ノ適用闡明ト云フ意義ニ、極言スレバ陪審法、而シテ本會議ニ於テ——政府ガ採テ現在ノ憲法解釋ハ、憲法第五十七條ノ解釋ハ、謂フ所ノ裁判ノ意義ハサウデアアルマイ、斯ウ云フ見地カラ行ケバ、陪審員ノ事實上ノ判斷ヲ以テ、確定シタ事實上ノ判斷ト見ルコトハ、憲法五十七條ノ規定ノ精神解釋ノ方面カラ言フデモ、或ハ形式上ドウ云フ解釋ガ出ルカ知レマセヌガ、精神解釋カラ行ケバイカヌコトニナルダラウ、併シ當局ノ觀ル所ニ於テハ、此陪審法ト云フモノガ、英吉利ヤ何カノ陪審法ノヤウニ、陪審員ニ事實確定ノ權限ヲ與ヘナケレバナラヌモノダト極力、是ガ國民全體ノ要求デアアル、又正義人道ニ合致シテ居ルト云フコトデアレバ、憲法ノ改正ト云フモノヲ企テモ宜イダラウ、併シ其處迄シナクテモ、司法制度ノ革新ハ満足出來ルモノデアアル、然ラバ穩健ナル憲法ノ解釋ノ範圍内ニ於テ出來ルダケノ法案ヲ作ルト云フ意味ニ、法制審議會モ、司法當局モ總テ合致シタノデアリマス、又樞密院モ合致シタノデアリマス、此事情ノ下ニ此陪審法案ト云フモノハ成立シテ居ルノデアリマス、ソレカラ第二段ノ憲法ノ解釋ニ付テノ御疑ニ付キマシテハ、裁判所ハ裁判スルケレドモ、法律ノ規定ニ依ッテ裁判スルケレドモ、此裁判スルノ何等ノ補助機關ガアッテハナラヌト云フ事ハ憲法ニハナイ、實ハ裁判ト云フ意義ハ、學者ハ色々ニ解釋スル、司法權ト云フモノヲ色々ニ解釋スル、司法權ノ働キハ裁判デアアルガ、民事ノ刑事ノ裁判スルモノヲ司法權ト云フ、私ハ極ク平凡ニ解釋スル方ガ宜イト思ヒマス、法ニ依ッテ裁判スルノガ司法權デアラフ、立方ハ幾ラデモ立テラレバ、ダカラシテ或意味カラ言ヘバ、檢察ノ起訴ガナケレバ裁判ニ手ガ出セナイ、如何ニ裁判ト雖モ、檢察ノ起訴ガナケレバ手ガ出セナイ、是ハ或意味カラ言ヘバ裁判所ヲ拘束シテ居ルヤウニ思ヘマセケレドモ、檢察ノ起訴モ、事實ノ真相ヲ得ル爲ニ搜查處分ヲ檢察處分ニサレテ、是ガ其徑路ヲ踏マセテ、事實上ノ判斷ニ運ブト云フコトハ、事實ノ真相ヲ得マウト云フ法律ノ規定、ソレト同ジ意味ニ檢察起訴後ニ於テモ、裁判所ガ最終ノ事實上ノ判斷ヲスル迄ニ、種々ノ補助機關ヲ用ヒテ、サウシテ事實ノ真相ノ收獲ヲ取ラレト云フコトニ骨ヲ折ルト云フコトハ、憲法ノ精神解釋ニ於テモ、何等觸ル、所ハナイ、斯ウ云フ解釋デヤッテ居リマス

○横山(金)委員 其點ハソレデ打切リマシテ、陪審法ノ第十二條ノ三號「引續キ二年以上直接國稅三圓以上ヲ納ムル

コト」是ハ成程各國ノ立法例ニモ斯様ナモノガアル様デアリマスガ、日本デハ今ヤ頻リニ憲法附屬ノ法案トシテ普通選舉ヲ唱ヘラレテ居リマス、現ニ政府並ニ與黨ノ人々ハ、尙早論ヲ唱ヘラレマシテ、之ニ反對シテ居リマス、併シ反對シテ居ラレナガラモ、其人ノ尙早論ヲ唱ヘラレル際ニ於ケル言辭ヲ承リマスルト、成ホド直接國稅三圓以上ヲ納メザル者ニモ、經驗ニ富シタ人ガ居ルノデアリマス、併シソレハ鹽梅シナケレバナラヌカラ、今俄ニ云々スル譯ニ行カナイ、斯ウ云フ趣意ニ承ツタノデアリマス、サウシマス、先ヅ各國ノ法制ノ方カラ觀マシテモ、成程ド陪審法ニモ略々十二條ノ三號ニ似タ規定ガアルヤウデアリマス、歐米ノ陪審法ハ、日本カラ見マスルト古ク制定セラレテ居ル、餘程歲月ヲ經テ居リマス、其間ニ變遷ト云フモノハ大變ニアルモノト考ヘルノデアリマス、一體現狀ヲ打破スルト云フコトハ、誰デモ一寸忌ミ嫌フモノデアリマスカラシテ、從來ノ陪審力ニ依ッテ今尙此規定ガ改正セラレザルニ止ツテ實際ニ於テハ改正スベキ必要ガアル多分各國ノ法制ノ上デモアルカト私ハ考ヘマス、日本ノ現在ニ於テモ、直接國稅三圓以上ヲ納メル者以外ニ、今申上ゲル如ク智識ニモ經驗ニモ富シデ、陪審員トシテヨリ優良ナ人ノ居ル事ハ疑ハナイノデアリマス、普通選舉ト云フ程度ニ至リマセヌデモ、此三號ノ條文ヲ存シテ置カレテ、尙外ニ智識經驗ノアル者ヲ陪審員トシテ加ヘルト云フコトノ御考ハナイノデアリマス、又直接國稅三圓以上ト云フコトハ、支那ノ所謂恒産恒心主義カラ來テ居ル舊イ思想カラデアリマス、必ズシモ現在ノ實情トハ伴フテ居ラス思想デアリマス、此間ニ何等カ緩和調和セラレベキ必要ハ、新ナル立法ニ於テ無カッタノデゴザイマスカラ、此點ヲ承リタイト思ヒマス

○馬場政府委員 陪審員ノ資格ニ付テハ、法制審議會ニ於テ之ヲ決定スル際ニ、種々ノ議論ガ出タノデアリマス、或ハ中學ヲ卒業シタ者ト云フヤウナ事ヲ一ツノ條件ニシタイ、其他幾多ノ議論ガ出タノデアリマス、併シ外國人ノ立法例ヲ今御話ニナリマシタガ、外國ノ立法例ハ、成程古イニハ相違アリマセヌガ、併シ新ラシク改正セラレタヤウナ國ニ於テモ、矢張此陪審員ノ資格ニ付テハ、相當ノ財產ノ要素ト云フヤウナモノヲ加味シテ居ルノデアリマス、ソコデ日本デ新タニ陪審員ノ資格ヲ定メルニ付テ、色々攻訐シマシタケレドモ、矢張今日ニ於テハ、相當ノ財產ノ要件、即チ之ヲ納稅デ現ハシテ居ル所ノ要件、即チ恒産恒心主義ナヤウナモノ、或ハ相當ノ期間一定ノ土地ニ住居シテ、生活上住居上ノ安定ヲ得テ居ル者、又相當ノ年齢ニ達シテ社會生活ニ相當經驗ヲ有シテ居ル者、且ツ或程度ノ讀ミ書キガ出來ルト云フコトニ依ッテ、今日迄ノ裁判所ニ於ケル陪審員ニ要求スル

所ノ常識ト云フモノガ、是等ノ要件ヲ備ヘタ者ニ於テ始メテ得ラレララウ、斯ウ云フコトデ、幾多ノ事ヲ考ヘテ見マシタケレドモ、例ヘバ中學校卒業ナドモ、高等普通教育ヲ受ケタト云フコトニ依ッテ、常識養成ノ經驗ヲ經タ者トシテ定ニ都合ガ好イノデアリマスガ、是等ヲ加ヘナカッタノハ、之ニ依テ得ル所ノ陪審員ナルモノガ、全國ニ甚ダ少イ、斯ウ云フ事ガ色々統計上得ラレマシタ故ニ、是デハ或ハ不完全力知レヌガ、是以上理想的ノ者ヲ求メルコトガムツカシイ故ニ、此程度デ甘ンズルト云フノデ、此處ニ落着イタノデアリマス、色々意見ガアリマシタガ、是以上ノ名案ハ、實ハ法制審議會デハ無カッタト云フコトヲ御答シテ置キマス

○横山(金)委員 今度ハ八條デスガ、是ハ攻訐ノ足ラヌ結果——外ノモ攻訐ガ、足リテ居ル譯デアリマセヌガ、攻訐ノ足ラヌ結果起ル疑問デスガ、八條ニ被告人カラ移審ノ請求ヲ爲サシメタルト云フ必要ハ御認メニナラナカッタノデスカ、若シナラナカッタト云フナラバ、ドウ云フ理由デスカ

○馬場政府委員 被告人ガ請求スルコトヲ認メナカッタノハ、被告人ハ若シ陪審ノ評議ガ公平ヲ失スルト思フヤウナ事ガアレバ、陪審ヲ何時デモ辭スルコトガ出來ル、ソレ故ニ唯檢察ニ此請求權ヲ認メレバ宜カラウ、斯ウ云フ趣意ガアリマス

○横山(金)委員 分リマシタ、サウスレバ八條ハ陪審ヲ請求シタ後ノ規定ニ屬スルノデスカ

○馬場政府委員 イヤ、法定陪審ニ付テモアリ得ルノデス

○横山(金)委員 サウ致シマス、甲ノ管轄ノ裁判所デハ陪審ノ評議ガ公平ヲ失スル虞ガアルケレドモ、乙ニ移シタ時ニハ公平ニ審議ガ進メラレルト、斯ウ云フ考ヲ起シマシタ時ニ、其必要ハ無イノデゴザイマス

○馬場政府委員 被告人ニ其處マデ權利ヲ與ヘル必要ハナカラウト云フ考デス

○横山(金)委員 此陪審員ヲ定メマスニハ、二十三條ニ依ッテ抽籤ヲ以テ定メル、是ハ公平ヲ保ツ爲ニ斯様ニサレタト云フ御説明デアリマスガ、此場合ニ若シ抽籤ノ偽造ナド、云フ事ガ出テ參リマシタ時ニハ、單ニ文書偽造罪ヲ以テ法律スルダケニ止マツテ居ルノデゴザイマス、何カ此抽籤ノ偽造ヲ罰スル法律ガ現行法ノ中ニアッテ、其規定ニ依ッテ此陪審法ノ上ニハ其制裁ハ定メナカッタト云フノデゴザイマス

○馬場政府委員 其點ハ一般法ニ讓ッテアルノデ、陪審法ニ特別ノ規定ヲ設ケ若クハ設クル者ハナイノデス

○横山(金)委員 一般法ニ抽籤ノ偽造ヲ罰スル規定ガアルノデスカ、唯文書偽造ダケデスカ

○馬場政府委員 私ノ解釋デハ、文書偽造ト思ヒマスガ、ソレハ司法省ノ專門家ガ居ラレマスカラ、其方々ニ御尋ラ願ヒタイト思ヒマス

○横山(金)委員 是ハ屢々質問ガ繰返サレテ居ル點デアリマス。此點ニ對シテ、審議綱領ト云フモノニハ、確ニ四條ノ中デ四號ヲ除キマス外ハ、一號二號三號ト云フモノ、如キハ、陪審ニ入レナケレバナラスモノ、中ニ特ニ加ヘテアツクヤウニ承テ居リマス、ソレガ特ニ陪審ニ付セザルコト、云フ反對ノ決定ヲ見マシタノハ、ドウ云フ譯デスカ

○馬場政府委員 ソレハ實ハ手前ニサウ云フ質問ガ出マシタノデアリマスガ、要スルニ二號ナドニ規定シテアル事犯ニ付テハ、或ハ此陪審員ガ冷靜ニ判斷スルト云フノハ、少シ不向デアアル、即チ政治觀念、或ハ外國ニ對スル敵愾心ト云フヤウナ關係ノ爲ニ、冷靜ナル判斷ヲ或ハ失フ虞ガアリハシナイカト云フ爲ニ、除外シタノデアリマス、之ニ付テ法制審議會ノ内輪話ヲ申シマスレバ、成程初ハ之ヲ是非陪審ニ掛ケタイト云フ議論モアリマシタガ、是ニモ實ハ色々議論ガアツタノデスカ、一應サウ極メタノデアリマス。ケレドモ、更ニ種々其後論議ガ出マシタ、陪審ハ兎ニ角今日初テノ仕事デアルカラ、成ベク誤リナカラシムコトヲ期スルト云フ方カラ言ヘバ、陪審員ノ冷靜ナル判斷ヲ失フヤウナ事件ハ先ヅ除外イタラ宜カラウト云フコトニ落着イタノデアリマス

○横山(金)委員 私ノ質問ハ是デ止メテ置キマス

○鳴澤委員長 ソレデハ次ハ原夫次郎君

○原委員 私ノ質問ハ、ホノ一二點デアリマスガ、本案ハ人文ノ發達、國運ノ進展ニ伴フテ御立案ニナツタ、國民一般ニ非常ニ熱望シテ居ル法案デアリマス、當局ニ於ケレマシテモ、非常ナル御苦心ノ餘リ此案ガ出來タノデ、此案ヲ見マス、其御苦心ノ痕ガ歴々トシテ現レテ居リマスノデ、寔簡潔ニナ大層良イ法案ト拜見致シテ居ルデアリマス、速ニ議ヲ經テ貴族院ニ送付セラルベキモノト思フデアリマス送ガ、如何ニモ重大ナル法案デアリシ、且ツ吾々委員ノ職責上、本案ヲ瞥見シタ所デ、ホノ一二點疑ヲ懷イタ點ダケラ、當局ノ御説明ヲ願ヒタイト思フデアリマス、中ニ迄モナク陪審ノ制度ハ、唯單リ政治方面ノ觀察ヨリ必要ナリト云フノミナラズ、刑事訴訟法ノ趣意カラ言ウテモ、最も必要ナル者デアルデアリマス、而シテ本案ニ採用セラレタル——日本憲法ノ趣意ニ副フ様ニ、多少不徹底ナル規定ノ仕方ガアル事ヲ、前回來御論議ニナツテ居リマスガ、本員モ是ハ少シ姑息デハナカッタカト思ハレルデアリマス。ケレドモ、併ナガラ一面カラ言フト、日本ノ現狀ニ照シテ、是ハ最も苦心セラレタ妙案デハナイカト思フデアリマス、何レニ致シマシテモ、其

點ニ付テハ、現在ニ於キマシテハ、左マデニ議論スベキ價值ノアル問題デハナイト思ヒマス、唯本案ノ如キ陪審制ガ立テラレタ以上ハ、最も思フ運ラサナケレバナラナイ點ハ、即チ陪審員ノ組織、陪審員ノ資格、是ガ最も本案ノ骨子ナルモノデアリ、本法實施ノ後ニ當リマシテモ、實際ニ最も利害關係ヲ及ス點トシテ、必ズ色々問題ガ現ハレテ來ルト思フデアリマス、本員等ノ解スル所ニ依リマス。ト云フ、一體日本ニ於テ陪審制度ノ樹立ハ、此陪審員ノ選定若クハ資格、是ガ一番根本デアツテ、他ノ事ハモウ陪審ノ利害關係デアルトカ、得失デアルトカ、是非トカ云フ事ハ、問題デハナイト思フデアリマス、然ル所本案ノ各法條ヲ瞥見スルト、最も重要ナル陪審員ノ資格問題ニ付テ法文ガ極メテ簡潔ニ出來テ居ルデアリマス、簡潔固ヨリ結構デアリマスガ、併ナガラ此簡潔ニ依ツテ、本案ガ制定ノ後、達セントスル目的ガ之ニ依ツテ果シテ達シ得ラレカ否カト云フ懸念ガ當然起ルデアリマス、例ヘバ御手本ニナツテ居ル英吉利ノ制度ヲ見マシテモ、英吉利ノ制度ニ於テハ、陪審員ノ資格ナルモノハ、先ヅ財產ヲ持ツテ居ル者、財產モ日本デ言ヘバ殆ド大地主ニ等シヤウナ非常ナル制限ヲ設ケテ居ル、而シテ刑事上ノ處分ヲ受ケタル者ニ付テモ、非常ナル制限ヲ設ケテ居ル、一デアリマス、斯ノ如ク一面ニ於テハ財產上ノ資格ヲ要求シ、一面ニ於テハ幾多ノ犯罪處分ヲ受ケタル者、概括シテ申セバ英國法デハ殆ド破産罪ノ處分ヲ受ケタル者ハ、總テ陪審員ニハ入レナイト云フヤウナ規定デアリ、或ハ先ニ一度陪審員ヲ設ケタル者、其次ニハ陪審ニシナイトカ云フヤウナ制限ヲ設ケタル者、結局陪審員タル者ハ、非常ナル「ゼントルム」デアツテ、サウシテ素人ノ常識アル者ヲ選出スル、斯ウ云フ趣意ニナツテ居ル、ソレカラ佛蘭西ノ法制ヲ見マナラバ、佛蘭西ニ於テハサウ云フ財產上ノ制限ハ、殆ド普通選舉モ同ジ様ナ關係ニ置イテ居ル、併ナガラ斯ノ如キ一般ノ佛蘭西國民若クハ佛蘭西公民カラ選出スル事ガ出來ルト云フ資格ヲ與ヘテアルダケニ、一面ニ於テ非常ナル窮乏ナル制限ヲ設ケテ、多クノ殆ドメボシイ罰金刑ヲ受ケタル者モイカス、ソレカラ先ニ陪審員デ呼出ラ受ケテ出頭セザリシ者ハ、復タ再ビ陪審員ノ資格ヲ得ルコトハ許サナイト云フヤウナコトデアル、或ハ違警罪ノ處分ヲ受ケタル者デアツテモ其違警罪ノ或種ノ違警罪ニ付テハ、陪審員タル資格ヲ除外スルト云フヤウナ風ナ、非常ナル苦心ノ下ニ非常ナル制限ヲ行ツテ居ル、其數ハ殆ド二十位ナ制限ニ及ンデ居ル、所デ斯ノ如キ重大ナル陪審員ノ資格ニ關シテ、本案ニ依リマス。ト云フ、十三條ノ四號ニ總テ懲役刑、六年以上ノ禁錮、斯ウ云フ制限ヲ置イテ居ル、中ニハ現在ノ刑法ニ於テモ、例ヘバ陪審ニ最も不適當デアルト思ハレル犯人ヲ贓匪スルトカ、證據ヲ湮滅

スルトカ、云フ犯罪ニ於テ處分ヲ受ケタル者デモ、罰金刑ダケデ濟ンダ被告人モアツタデアラウト思ハレル、ソレカラ職務ノ執行妨害罪ノ如キデモ、矢張禁錮刑モ併用シテ居リマスガ、故ニ此中カラ取除ケラレルヤウナコトガアル、ソレカラ總テノ讀解罪ノ如キモノデモ、或ハ秘密ノ漏洩罪デモ、或ハ脅迫罪デモ、或ハ名譽ノ毀損罪デモ、斯ウ云フヤウナ者ガ陪審員トナルド云フト、神聖ナル法廷ニ出テ、サウシテ殆ド其者ノ居ル住居ハ、人ガ相手ニシナイヤウナ者ガ、他人ノ重大ナル犯罪ノ答申ヲナス、殆ド裁判官ニ等シキ名譽ノ地位ヲ汚ス、斯ウ云フコトデハ、甚ダ前途司法權ニ裁判權ノ威信ヲ保ツ所以デアハナイデアラウト思フデアリマス、ソレデアリマス。英米ニ於テモ是等ノ點ニ於テハ非常ナル制限ヲ置イテ陪審員ノ眞ノ名譽ヲ名譽アラシムルヤウナ、傷ツケナイヤウナ風ナ法制ヲ採ツテ居ルト推想致シテ居ルデアリマス、所デ我日本ニ於テハ、事ハ初テノ試ミデアアル、本員等ガ豫テ陪審制度ノ樹立ヲ熱望シテ居、タノデアアルケレドモ、併ナガラ唯タ日本ノ現在ニ於テハ、ドウモ陪審員ノ選定如何ガ一番懸念ノ至リニ思フデアリマスガ、當局モ蓋シサウデアツタラウト思フ、然ルニ若シ斯ウ云フ資格ニ於テ、杜撰ト云ツテハ失禮デアリマス。ケレドモ、斯ウ云フ寛大ナル廣イ意味ニ於テ、而モ此選定方法ハ抽籤デアリマス、佛蘭西トカ、英吉利ト云フト趣ガ違テ居ル、選出法ガ此抽籤デ、斯ウ云フ前科者ガドココ出掛ケテ來テ、之ガ陪審員デゴザルト云ツテ、法廷ニ列セラレテ、之ニ答申ヲ求ムルト云フヤウニナレバ、是コソ新シキ試ミト上ニ於テ、如何ナルモノカト、非常ニ憂慮セザルヲ得ナイノデアリマスガ、衆議院議員選舉法ナドノ規定ヲ參照シテ免ルト云フ、是等ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者トカ、或ハ六年未滿ノ懲役禁錮又ハ其執行ヲ受クルニ至ルマデノ者トカト云フヤウナ者ニハ、是ハ或理想ノ人間ヲ選出スル選舉權デアリマス。ケレドモ、陪審員者ノ資格トハ大シタ違ヒガアルデアリマスガ、衆議院議員選舉法ノ如キ、或ハ府縣會議員選舉法ノ如キ、市町村會議員選舉法ノ如キモノハ、陪審員ノ資格トハ非常ナ違ヒガアルモノデアラカ、差支ナイト思フデアリマスガ、願ミテ裁判機關ニ任ズル辯護士ノ方ノコトヲ參照シテ見マシテモ、辯護士法ニハ幾ラモ制限ガ現ハレテ居ル、是ハ私ガ此處ニ一々申スマデモナク罰金刑デアラウガ何デアラウガ、罪名ヲ示シテ不敬罪デアラウガ偽證罪デアラウガ、賄賂罪デアラウガ、誣告罪デアラウガ、サウ云フ罪ヲ列舉シテ、此罪ニ掛ツタモノハ辯護士ニナル事ハ出來ナイト云フ、ソレカラ公證人ニ就テモ、執達吏ニ就テモ、寧ロ是等ハ陪審ノ委員タル性質ヨリ、見ヤウニ依ツテハ薄弱ナ性質ヲ持ツテ居ル人々デスカラ、非常ナル制限規定ガアルノデア

第五類第八號 刑事訴訟法案委員會議錄 第十回 大正十一年三月六日

一三

リマス、風紀問題ノ八釜シイ今日ニ於キマシテ、又今後思想界ノ色々ノ動亂ニ對シマシテモ、此點ニ關シテハ本法案ハ政府側ニ於テハドウ云フ御意見デアリマセウカ、ソレヲ伺フテ置キタイノデアリマス

○馬場政府委員 御説ハ御尤ナヤウニモ考ヘラレマスガ、此陪審ニ付テ、大體懲役ト云フ刑ニ處セラレタ者ハ全部排斥シテ居ル、是ハ先ヅ私ノ申上ダマシマデモナク、所謂破廉恥罪ヲ犯シタ者デ、懲役ニ處セラレタ者ト云フノハ重イモノデアリマス、禁錮刑ニ處セラレタヤウナ者デ、破廉恥罪ノヤウナモノデアリマスケレドモ、ソレハ餘程罪狀方違フ、斯ウ云フ爲ニ此刑ニ處セラレタ者グラウト私ハ信ジテ思ヒマス、故ニ先ヅ懲役刑ニ處セラレタ者ハ、除外シテ置ケバ、大體ニ於テハ破廉恥罪ヲ犯シタヤウナ者ハ、陪審員トシテ加ハルコトガ出來ヌノミナラズ、懲役ニ處セラレタ者ヲ除外シテ陪審員ノ候補者ヲ名簿ニ舉ゲルノデモ、隨分手數ノ多イノデアラウト思ヒマスシ、ソレニ向テ更ニ幾多ノ缺格條件ヲ加ヘルト云フコトニナリマス、餘程名簿ヲ作ル上ニ於テ煩雜ノ度ヲ増スデアラウト考ヘマス、ノミナラズ陪審ニ付テハ、忌避ト云フコトガ出來ルノデアリマスカラシテ、或程度マデハ檢事或ハ當事者ナリニ於テ、サウ云フ惡評アリ、若ハ刑ニ處セラレタ者モアリト云フコトガ分ツ場合ニ於テハ、之ヲ忌避スルノ途モアリ、又辯護士公證人執達吏等ニ付テ御説モアリマシケレドモ、是等ハ單獨ソレノ仕事ヲシテ居ルノデアリマスガ、陪審員ノコトハ、言フマデモナク、多數ノ者ト仕事ヲスルノデアリマスカラ、偶、或一人ガサウ云フ不都合ナ者ガ假ニ這入ッテ居リマシタ所デ、其人間一個ノ意見ニ依ッテ事方定マル——仕事ヲ執ルノトハ、餘程ソコニ譯合モ違フグラウト思フノデアリマス、此點ニ付テハ、法制會議會ニ於テ、或ハ罪ノ種類ヲ列舉シヤウカト色々種々意見モ出マシケレドモ、先ヅ是等ノ繁雜ナ制度ヲ設ケタ所デ、中々之ヲ實行スルコトハ困難デアリ、又犯罪ノ種類ヲ此處ニ列舉シタトテ、將來幾多ノ刑罰規定ノ出來ル場合ニ、ソレト權衡ヲ取ル爲メニ更ニ改正スルノモ甚ダ煩ハシイノデ、此制度デ満足スル外ナカラウトナツノデ、御説ハ拘ニ御尤デアリマシテ、其點ニ付テハ實ハ政府ニ於テモ十分攻究ハ致シマシタノデアリマス、先ヅ此程度デ我慢ヲ願ヒタイノデアリマス

付テノ其點ヲ見ルト云フト、是ハ五百圓以下ノ過料トナツテ居リマスガ、是ハ罰金刑ヲドウシテ御採用ニナラナカッタノデアルカト云フ事ト、ソレカラ第二ニハ先程引用致シマシタ十三條ノ第四號、懲役六年以上ノ禁錮、舊刑法ノ重罪ノ刑又ハ重禁錮ニ處セラレタル者、此處セラレタル者ノ中ニハ、無論恩赦令ニ依ッテ大赦特赦減刑等ノアツタ場合ニ於テハ、ソレハ唯將來ノ事デアルカラ、處セラレタ者ト云フ中ニハ含マナイモノデアラウトハ思ヒマスケレドモ、其二點ダケヲモウ一應御尋ネシマス

○馬場政府委員 過料ニ止メマシタノハ、陪審員ハ職務ノ上ニ於テノ一種ノ懈怠デアル、怠リデアルト云フコトニナリマスノデアリマスカラ、佛蘭西ノヤウニ餘リ罰金ト云フヤウナ刑罰ノ制裁ヲ加ヘルニ及ブマイ、斯ウ云フコトニ考ヘタノデアリマス、是ハ過料ガ其他ノ規定ト御對照ニナリマスレバ、先ヅ此程度デ適當デアラウト思フノデアリマス、ソレカラ十三條四號ノ處セラレタル者ガ復權ヲ致シマスレバ、其資格ヲ將來恢復致シマスカラ、陪審員タルニ何等差支ナイト云フコトニナリマス

○原委員 最後ニ過料デモ兎ニ角呼出ニ應ジナイデ、陪審員ノ任務ヲ曠ウシタ故意ノ場合、若クハ怠ケタイト云フ場合、故意ノ場合ヲ想像スルノデアリマスガ、サウ云フ者モ矢張次年度ニ除カナイト云フノハ、ドウ云フ風ナ御精神デアリマセウカ、其點ヲ伺ヒマス

○馬場政府委員 過料ニ處セラレタ者ヲ除カナイノハ、陪審員ト云フモノハデス、此陪審法ノ上カラ見マスルト、義務ト云フ方ニ重キヲ置イテ居ルノデアテ、權利ト云フ方面モ見テ居ルケレドモ、丁度選舉權ノヤウナモノハ權利ニ重キヲ置イテ、義務ヲ輕ク見テ居ルガ、是トハ正反對ニ義務ノ方ヲ重ク見テ、權利ノ方ヲ輕ク見テ居ルト云フ譯ニナルノデアリマス、一度陪審員ニ應ジナカッタモノヲ免除シタナラバ、寧ロ權利ヲ與ヘルカノ如キ形ニナリ、義務ヲ行ハシムルト云フ途ニナラヌノデアルカラ、ソレデ陪審員トシテ呼出シテ、故ナク應ジナケレバ過料ニ處スル、マタ應ジナカッタ時ハ復タ過料ニ處スルト、斯ウ云フ事ニナル、其方適當ナ矯正手段デアルト思ヒマス

○原委員 今度ハ愈々最後デス、陪審員ガ事故ガアツテ呼出ニ應ズルコトガ出來ナイト云フコトヲ以テ疏明スレバ、出頭シナクテモ宜シイヤウニ、ドツカノ規定ガアツタヤウニ思ヒマス、所デ全然故意ニサウ云フ事ハ嫌ダト言ツテ出ナイ、サウシテ過料迄モ納メタ者ヲ、更ニ次年度ニ強ヒテ其者ガ陪審員ニ抽籤ニ依ッテ現ハレ出スト云フ事ハ、ドウモ穩當デナイヤウニ思ヒマスガ、ソレハ暫ク措イテ、若シ直接國稅三圓ヲバ納メテ居ル者デアツテモ、何カノ都合デ毎日働カナケ

レバ、ドウシテモ家族ガ大勢出來テ、食ヒナイトカ、或ハ損失ヲシテ、ドウモ陪審員ノ任務ヲ盡スコトガ出來ナイト云フテ出ナイヤウナ者ニ付テハ、是ニハ何ニモナイノデアリマスルガ、ソレ等ノ點ニ付テハ、此本案立案ノ趣旨ハドウ云フ風ナ御關係ニナリマスガ、一寸御尋ネ致シマス

○馬場政府委員 御質問ノ趣旨ハ一寸分リ兼ネタノデアリマスガ、要スルニ今御質問ノ直接國稅三圓以上ヲ納メテ居ルケレドモ、併シ陪審員トシテ一日モ二日モ呼出サレタ爲ニ、家族ヲ養フテ行クコトガ出來ナイ、斯ウ云フ者デアレバ、之ハ故ナク呼出シニ應ジナイノデハナクテ、故アツテ應ジ難イノデアリマスカラ、之ハ罰シヤウガナカラウト思ヒマス

○山移委員 次ハ山移移

○山移委員 私人御尋ネ致シタウゴザイマスノハ、主問ト補問——主問ト云フノハ分リマスガ、補問ト云フノハドウ云フ範圍ニナリマス

○林政府委員 主問ト云ヒマスノハ、檢事カラ公訴ヲ提起シマシタ、其公訴ノ事實其モノ、有無ヲ評議スル所ノ問題デアリマス、補問ト云ヒマスガ、公訴提起ノ時ニ檢事ガ指摘シタ事實ト違フ事實ヲ評議セシメル必要ガアル場合デアリマス、譬ヘテ申シマス、檢事ハ殺人罪ノ起訴ヲ致シマス、故意ヲ以テ人ヲ殺シタト云フ、斯ウ云フ事ガ公訴事實ニナツテ居リマス、其故意ヲ以テ人ヲ殺シタ事實ガアルカドウカト云フ問ハ、之ハ主問ニ屬スルノデアリマス、所ガ段々此公判ガ進行ノ模様デ、或ハ故意ヲ以テ殺シタ事實ハ無いシテ、過失ニ依ッテ殺シタ事實ガアルカモ知レナイ、斯ウ云フ疑ノ起ル事實ガアリマス、サウ云フヤウナ場合ニ、故意ヲ以テ殺シタ事實ハ假ニ無いトスレバ、過失ヲ以テ殺シタ事實ハアルカドウカ、斯ウ云フ事ヲ問フ必要ガアリマス、ソレヲ詰リ補問ニ該當シマス

○山移委員 犯罪構成事實ノ有無ノ答申ト、ソレカラ罪責ノ有無ノ差デゴザイマス之ハ罪責ノ有無ハ答ヘル事ハ出來ナイ、併ナガラ犯罪構成ノ事實ノ有無ニ付テハ答ヘナケレバナラス、是ガ甚ダ私ニハ了解シ惡イノデアリマス、勿論此陪審法モ憲法ノ解釋ノムズカシイ爲ニ、大分ムズカシイ點ヲ御避ケニナツタ風デアリマス、併シ評決ヲ評議ニ直ストカ云フ事モアリマス、サウシテ評議ト評決トハ其效力ニ於テハ殆ド同ジダト云フ様ナ先程ノ御説明モアリマシタ、羊頭ヲ掲ゲテ狗肉ヲ賣ルノデナクテ、狗肉ヲ掲ゲテ羊頭ヲ得ルト解釋スレバ宜シイカモ知レマセマスガ、併シドウモ此所ノ所ハ私ニハ分リ兼ネマス、犯罪構成事實ノ有無ト云フ事ガ或點ニナリマス、此事實ハ罪トナルヤ否ヤト斯ウ問ハレマス、然リト答ヘラレル、罪責ノアルコトヲ其所認メテ

アリマスカラ……

○林政府委員 此案ニ於キマシテハ、陪審員ノ評議スベキ事項ハ、全ク事實問題デアリマシテ、法律問題ニ付テハ關與セシメナイコトニテ居リマシテ、罪責ノ有無ト云フ事ニナリマス。單純ニ事實問題ノミジヤアリマセヌ、要スルニ有罪無罪、斯ウ云フ答ヲコトニナルノデアリマス。本案ノ立方ニ付テハ、サウ云フコトハサセマセヌ、問ヲ出ス場合ニ、有罪デアルカ無罪デアルカト云フ事ヲ問クノデナイ、有罪無罪ノ判斷ヲスルニ必要ナル事實ノ有無デケニ付テ聽クノデアリマス。其事實ガ有ルカ無イカ之ダケヲ陪審員ハ答ヘル、其事實ガ有ル場合ニ如何ナル法律關係ニ立ツカト云フ事ハ、之ハ裁判所ガ判斷ヲスル、斯ウ云フコトニテ居リマス。

○山移委員 事實ノ有無ト云フコトデアリマス。私ハ御解釋ハ分ルノデアリマス。併ナガラ犯罪構成事實ノ有無ト云フコトニナリマス。斯クモシタコトハ之ハ犯罪ニナルカナラスカト云フ事ヲ御尋ネニナル、サウスルト其事實ガ犯罪デアリト認ムルナラバ、ヤハリ罪責ノ有無ノ意味ヲ答ヘルヨリ外ハナイコトニナリハセヌカ。唯、事實ハ認メルカ認メナイカト云フナラバ宜シウゴザイマスガ、犯罪構成事實ト云フコトニナリマス。矢張事實カ否カト云フコトヨリ答ヘラレナイカト存ジマス。

○林政府委員 犯罪構成事實云々ト 此案ニ書キマシタノハ、取調ベラレタ色々ノ事實ノ中デ、犯罪ノ構成ニ關スルモノト、構成ニ關シナイモノガアリマス。ソレハ裁判所デ見分ケマス。サウシテ犯罪構成ニ關スル事實ノミヲ陪審員ニ問フ出シマス。其間ニ付テ陪審員ガ答ヘルコトニナリマス。詰リ犯罪ヲ構成スルヤ否ヤト云フ法律上ノ判斷ヲ陪審員ニ求メルコトハアリマセヌ。犯罪ノ構成事實ニ當ルカドウカト云フコトハ、裁判所ガ決定シテ、其構成事實ニ當ルモノニ付テ陪審員ニ問フノデアリマス。

○山移委員 サウシマス。犯罪ノ斯ク々々ノ事實ガアル、ソレハ事實ヲ認メルカ否カト云フコトデゴザイマス。或ハ是ハ犯罪ヲ構成スルカセヌカト云ノデアリマス。

○林政府委員 例ヲ以テ申シマス。陪審員ニ問ヒマスノハ例ヘバ殺人罪ガ成立スルカドウカト云フ事ヲ問クノデアリマセヌ。故意ヲ以テ人ヲ殺シタ事實ガアルカドウカト云フ風ニ聞キマス。ソコデ陪審員ハ故意ヲ以テ人ヲ殺シタ事實ガアルカドウカニ付テ答ヘマス。有ルナラバ然リ、無ケレバ然ラズ。斯ウ云フ風ニ答ヘマス。全ク犯罪構成ノ土臺トナル事實其物ニ付テハ評議スル關係ニナリマス。

○山移委員 此第八條ニ依リマス。地方ノ情況ニ由リ陪審ノ評議公平ヲ失スルノ虞アルトキハ檢察ハ直近上級裁判所

ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スコトヲ得」トゴザイマスガ、其上級裁判所ハ何ヲ指シマス。

○林政府委員 直近上級裁判所デアリマス。控訴院ニ當リマス。

○山移委員 控訴院ニ當ルト致シマス。控訴院ニ於ケル評議員ハドシナ情況デアリマス。評議員ハ總テ地方裁判所ニアルダケノヤウニ解シテ居リマス。其點ハ如何デアリマス。

○林政府委員 第八條ハ管轄移轉ノ請求ヲ控訴院ニシマス。控訴院ガ其請求ニ付テ決定ヲ致シマシテ、サウシテ他ノ地方裁判所ヘ管轄ヲ移スコトニナリマス。管轄ヲ移サレタ地方裁判所ガ、陪審ノ評議ニ付シテ審判スルコトニナリマス。

○山移委員 先刻大分質問ガアツヤウデアリマス。尙ホ私ハ御尋ネ致シマス。陪審ノ意見ガ度々評議スレバ纏マラヌ譯ガナイ。衆議院貴族院ノ協議サヘ纏マルト云フ御話デアリマシタガ、併ナガラ衆議院貴族院ト申シマス。色々ト言葉モゴザイマス。此評議員デゴザイマス。ト「イエス」トカ「ノー」トカ云フ答ヨリ外ニ出來ヌノデアリマス。意見ノ徹底モ存外ムヅカシイカト思ヒマス。サウシテ評議員ノ三十六名デゴザイマス。十二名宛ト云フ事ニナリマス。ト三分ノ一デ相談ガ出來ヌ、サウ云フヤウナコトゴザイマス。ト「ノー」ト「イエス」ト一致ガ出來ルト云フコトニモ限ルマイト思ヒマス。然ルニ陪審ノ答申ヲ取テ判決ニ記載スル、陪審ノ答申ヲ取ラヌ場合ハ結局ドウナリマス。陪審デハソレヲ否ト答フシテ居リマス。裁判長ハソレヲ不當ト見ルト、更ニ諮問ヲ他ノ陪審員ニ致シマス。結局纏ラヌ、答申ヲ取ラヌ場合ハドウナリマス。答申ヲ取リマシタ場合ニハドウナリマス。

○馬場政府委員 只今三十六人ト云フト、十二人ハ三分ノ一トカ何トカ云フ御話デアリマシタガ、三十六人宛呼出シマス。一ツノ陪審ヲ構成スルニ付テ、サウシテ二十四人ダケ頭ガ揃ヘバ十二人デ陪審ガ出來ル、陪審ノ更新ハ又別ニ三十六人ヲ出シテヤル、三十六人ノ三分ノ一ト云フ關係ハアリマセヌ。ソレカラ陪審ノ答申ヲ不當ト認ムルト云フノハ、犯罪事實ナシト認ムル場合ガアリマス。犯罪事實アリト認ムル場合ガアリマス。犯罪事實ナシト云フノヲ不當ト認ムル場合ハ、裁判官ハ犯罪事實アリト考ヘテ居ル、ソレカラ唯々「イエス」トカ「ノー」トカ答ヘルノデアルカラ、意思ノ疏通ガナイ。纏ルカドウカ分ラヌト云フ御話デアリマス。何カ一本ノ木ヲ持テ來テ、是ハ槍カ杉カト云フ問題ガ起ル、兎ニ角調ベテ犯罪ノ事實ガ極メテ居ル、其事實ノ極メヲスル、サウシテ何某ハイツ何日人ヲ殺シタガ、サウ云フ事實ガア

ルカナイカト云フコトヲ問クノデアリマス。是ハ意思ノ疏通ガ有ル無シノ問題デナイ。不明ノ物ヲ持テ來テ、植物カ動物カト云フコトヲ問クノデアリマス。デアリマシテ、事件ヲ調べテ、雙方ヲサラケ出シテ御互ニヤルノデアリマス。

○山移委員 此九十三條ニ「裁判長ハ公判廷ニ於テ裁判書記ヲシテ問及之ニ對スル陪審ノ答申ヲ朗讀セシムベシ」ト云フ條項ガアリマス。サウ致シマス。此答申ノ朗讀ヲシナイト云フ場合ハ先ニ否ト答フシタモノノアル場合デアリマス。皆、是ト云フコトデアレバ宜イケレドモ、第一同モ否、第二同モ否ト云フ者ガアツテ、第三同ニ然リト答ヘタコトヲ朗讀スルノデアリマス。然リト云フ事ダケヲ讀ミマス。

○馬場政府委員 十二人ノ陪審員ガ評議シテ、其結果多數決デ「イエス」ト「ノー」ガ決ッデシマウ、ソレガ陪審ノ精神ニナル譯デアリマス。西洋ノ陪審ハ陪審長ガ出來テ來テ、公判廷デ有罪無罪ヲ言渡スノデアリマス。ケレドモ、之ヲ陪審長ガ答ヘルト云フコトハ多少厭ガリハセヌカト云フコトヲ懸念致シマシタ。ト「ノー」ト云フ時ニハ顔ガ宜クナリマス。ケレドモ、犯罪ノ事實アルト云フコトヲ大キナ聲デヤルノハ、幾ラカ厭ガルモノデアリハシナイカ。寧ロ書面デ書イタ物ヲ出シテ、裁判書記ガ犯罪ノ事實アリト云フ事ニシタラ宜カラウト思ヒマス。兎ニ角一部分ニ付テハナク、纏マツ答申ヲアリマセヌカラ、決ッテ陪審ノ表決其モノガ答申サレルトデアリマス。

○山移委員 一人々々デナイコトハ分ッテ居リマス。陪審員長ガ纏メテヤルト云フコトハ分ッテ居リマス。併シ陪審員ノ意見トシテ「ノー」ト云フ答申ノ出タ時ニ、其「ノー」ト云フ意見ヲ裁判長ノ前ニ出シマス。書記ガ「ノー」ト云フ答申ガアルト云フコトヲ讀ンデ、裁判長ノ意見ニ合ハヌト、復タ陪審ヲスルコトニナリマス。

○馬場政府委員 陪審ノ答申ガ犯罪事實無ト云フ答申シタ時ニ、ソレヲ書記ガ朗讀シテ、裁判長ガ聽イテ犯罪ガアルト考ヘタ時ニハ、合議ノ上決定スルノデアリマス。

○山移委員 サウスルト判決ニモ、其事ガ陪審ニ於テハ「ノー」ト云フ答ガ出タガ、第二陪審ニ於テ「イエス」ト云フ答ガ出タト云フコトヲ表決致シマス。

○馬場政府委員 間接ニハ——結局採擇シテ陪審ノ事ヲ書ケバ宜イノデ、初メ第一回ハドウ、第二回ハドウト云フコトヲ書カズニ、最後ニ採擇シタ陪審ノ事ヲ表示スレバ宜イノデアリマス。

○山移委員 サウスルト伺ッテ置キマス。裁判官ノ採用スル答申ハ、ドウ云フモノヲ採用スルコトニナリマス。

○馬場政府委員 最終ノモノヲ採用致シマス

○森山委員 此請求陪審ノ範圍ノ狹キコトヲ私ハ甚ダ遺憾

トシテモ、法制審議會ニ於テ議決セラレタル範圍、或ハ政府

ガ樞密院ニ最初提出セラレタル陪審制度ハ、廣カク

デアル、ソレガ樞密院ノ議決ノ結果、範圍ガ狹少ニナリ

ウニ承テ居リマス、即チ長期三年ヲ超ユル有期ノ懲役、又

ハ禁錮、之ダケニ限リテ以下ノ事件ヲ請求陪審ニシナ

ク、ハ禁錮ノ時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

ナル云フノハ、時代ノ要求ニ照シテ、適當デアルト御認メニ

事實ノ認定ニ優劣認定ヲシ得ルヤ否ヤト申シマシタナラバ

成程此資格ノアル人ノ中デモ、無論左様ナ知識モアリ、經驗

モアル人モ無論ゴザイマセウケレドモ、又其人ニ依リマシ

テハ、此資格者十二人寄セマシタ所デ、一人ノ裁判官ニモ

如カナイヤウナ結果ヲ生ジハシナイカト思ヒマス、誰デモ

此中カラ十二人サヘ出セバ宜シト云フコトハ、頗ル是ハ

危險ナコトデアラウト信ズルノデアリマス、先程申シマシ

タ通り、選舉ニシタラ宜シ、此者ニ選舉權ヲ持タセテ、適

當ナル人ヲ選舉シタラバ、相當ナル知識モ經驗モアル人

ガゴザイマセウケレドモ、抽籤ニ依テ當選スル人デゴザイ

マシタナラバ、果シテ其人ガ其任ニ堪ヘルヤ否ヤ、是ハ頗ル

疑問デアル、就キマシテハ私ノ意見ト致シマシテハ此條項

ガ必要トアルト致シマシテモ、尙ホ此上ニ相當ナル適任者

ヲ得ルト云フ資格ヲ添ヘル必要ガアリハシナイカト思ヒマ

ス、是ダケノコトハデドウモ甚ダ心配ニ堪ヘナイデアリマ

ス、就キマシテハ政府ハ、此資格サヘ備ヘテ居ル者ヲ出セバ

必ズ適任者ヲ得ラレルト云フコトノ御確信ガアルノデアリ

マスカドウデスカ、此點ヲ一ツ伺ヒタイ

○馬場政府委員 陪審員ノ資格ニ付キマシテハ、先刻來色

々ノ御議論モ拜聴致シタノデアリマスガ、併ナガラ只今ノ

御意見ノ如クニ、茲ニ掲ゲタルモノヲ以テ陪審員ヲ選舉ス

ル資格ニスル、サウシテ此者カラシテ選舉制度ヲ以テ陪審

員ヲ出サウト云フコトハ、是ハ成程理論上可ナルガ如クデ

アリマスガ、實行ニ於テ頗ル煩雜ナル事ニナラウト思ヒマ

ス、何トナレバ一ツノ町村カラシテ一人出ストカ、或ハ二人

出スト云フヤウナコトデアリマスレバ、成程選舉制度ニ依

テ之ヲ實行スルコトモ出來マセウケレドモ、一ツノ町村ナ

リ市ナリカラ、數十名場合ニ依ッテハ數百名ニ上ル場合モ

ナキニシモアラズデアリマス、之ヲ選舉制度ニ實行スル

コトハ、言フベクシテ行ハレズ、ソコデ外國ニアリマス

ル制度ハ、或ハ郡長ナリ、裁判官ナリ、判事ナリガ、委員長ナ

リ何カニナリマシテ、選定スル、委員ヲ選定スルコト云フヤ

ウナ制度ヲ採テ居ル國モアリマス、是ハ一ツノ方法ナリト

ハ思ヒマスレドモ、此申上ガマシタ如ク、斯ウ云フ事ノ

爲ニ政黨ノ色彩ト云フ問題ガ始終ニ付クノデアリマス、

却テ不公平ナルモノヲ選ビ出ス、詰リ或ハ一派ヨリ悉ク

陪審員ヲ出スト云フコトモ、必ズシテ無意味ハ言ヘナイ、其

事ノ爲ニ起ルベキ弊害モ亦考ヘナケレバナラヌ、ソコデ茲

ニ掲ゲタル資格ダケデハ如何ニモ不安心デアルカラ、之ニ

何カ附加ヘヤウト云フコトモ、議論トシテ隨分考ヘラレタ

ノデアリマス、如何ナルモノヲ附加ヘルカ、抽籤ヲ止メル

ト云フ主義、選舉ヲ止メル、選定主義ヲ止メルト云フコトニ

ナリマシテ、是以上附加フベキモノハナイ、而シテ是ダケノ

モノ、中カラシテ、全ク不適任ト見ルベキ者ハ、檢事ノ忌避

モ出來ルノデアリマス、少クトモ二十四人以上出テ來レバ、

陪審ノ構成ガ始マリマス、デアリマスルカラ、先ツ此程度ニ

於テ今日ノ場合ハ已ムヲ得ナカラウ、併ナガラ將來中學校

卒業生ト云フヤウナモノガ、非常ニ全國ニ普及スルコト云フ

時代ガ參リマシタナラバ、更ニ斯ウ云フモノヲ採ルモノツ

ノ方法カモ知レマセス、併シ是ニハ餘程考慮ヲ要スル、而モ

此陪審員ガ事實認定スレバ、必ズ事實ニナシト力裁判官

ガ事實ノ認定スレバ必ズ事實ニ誤リ誤リガアルト云フ

ヤウナコトハ、絕對ニ言フコトハ出來ナイ、陪審員ガ認定

スレバ、必ズ誤リガ發見サレナイトスレバ、悉ク陪審ダ全部

ヤッテ、全ク裁判官ヲ除斥シナケレバナラスト云フヤウニナ

リマスガ、サウ云フコトデハナイ、日本デハ此陪審員ノ意見

ヲ裁判官ガ採擇スルニ付テハ、必裁判官ノ事實認定ガ加ハ

ルノデアリマスカラシテ、是ハ只今ノヤウナ御心配ハナカ

ラウト、斯ウ考ヘテ居リマス

○森山委員 私モ選舉ニシロト云フ譯デハナイノデアリマ

ス、選舉デモスル譯デアレバ宜シイガ、此中カラ抽籤ニスル

ト云フコトデアレバ、甚ダ不適任ナル陪審ガ當選シハシナ

イカト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、ソコデ此處ニ記

載シテアリマスル所ノ資格ハ、先程申述ベマシタ通りデゴ

ザイマシテ、人物ノ適任者ヲ得ルト云フコトニ付キマシテ

ハ、殆ド其要件ガ缺ケテ居ルヤウニ思ハレマス、故ニ御尋ラ

シタ譯デアリマスガ、只今ノ御答ニ依ッテモ、ハッキリ致シマ

セスガ、サウスルト今日ノ時代ニ於テハ、是ダケノ資格ノ者

デサヘアレバ、如何ナル人ガ抽籤ニ當ッテモ、キツト陪審員

ノ適當ナル人ヲ必ズ得ラレルト云フコトヲ御斷言ニナリマス

カドウカ、其點ヲ伺ッテ置キマ

○馬場政府委員 陪審員ハ、私ノ辯ズル迄モナク、此人物ト

云フコトヲ一向要求シテ居ル積リハナイノデアリマス、即

チ常識ガアルカドウカト云フ問題デアリマス、此常識ト云

フモノハ、此世ノ中ニ相當ノ年月間生活ヲシ、先ツ此處ニ掲

ゲタヤウナ程度ノ者ニ於テハ、相當ノ常識ガアル、斯ウ云フ

コトニ判斷シマスレバ宜シイノデアリマス、斯ウ云フ譯デ

アリマスカラ、私共ハ先ツ年齢三十歳以上デ、斯々ノ條件ガ

アリ、常識ガアルト云フコトガ、最も必要デアル

○森山委員 私人人物ト申シマシタ所ガ、大學者ヤ大人物

ヲ申スノデアリマセス、即チ裁判官ノ諮問ニ應ジテ、事實ノ

有無ヲ判斷スルダケノ能力ガアル者デアリヤ否ヤト云フ點

ニ付テ申シタノデアリマス、アリマスガ、併シ只今御答辯以

上ハ、議論ニナリマスカラ、此點ハ是ダケニ止メマシテ、モ

ウ一二點ダケヲ御尋シテ止メルコトニ致シマス、本法ノ百

一條及百三條ニ依リマスレバ、陪審員ノ答申ヲ採擇シテ事

ヲ

ヲ

ヲ

ヲ

ヲ

ヲ

ヲ

ヲ

ヲ

ヲ

ヲ

ヲ

ヲ

ヲ

ヲ

ヲ

ヲ

ヲ

ヲ

ヲ

ヲ

ヲ

ヲ

ヲ

ヲ

ヲ

實ノ判斷ヲシタ事件ニ付テハ、控訴モ許サス、又上告ノ場合ニ於テモ、事實ノ誤認ヲ理由トスル場合ハ上告ハ許サナイコトニナツテ居リマス、成程外國ノ陪審制度ヲ見マス、ト、控訴ヲ許サナイ所モアリマス、又此控訴ノ範圍ヲ限定シタ所モアルノデアリマス、私ハ此微温的ナ我國ノ陪審法ニ於キマシテハ、無論控訴ヲ許シ、尙ホ事實ノ誤認ノ場合モ上告ヲ許シタ方ガ、公正ニ裁判ヲ行フ所以ト信ズルノデアリマス、數日來カラ議論ノアリマシタ通り、我國ノ陪審ト云フモノハ、裁判官ヲ羈束スル權威ハナイ、成程事實トシマシテハ裁判官ガ陪審員ノ意見ニ從フノデゴザイマス、ケレドモ、裁判官自ラ不當トシタラ、幾度デモ陪審員ヲ取替ヘル事ガ出來ル、今日ノ如ク官尊民卑ノ盛ナル世ノ中ニ於テハ、結局陪審員ト云フモノハ、裁判官ノ意見ニ引ケラレル處ガアルト信ジマス、加之陪審員ハ如何ナル人デアルカト云フト、先程御尋ネシマシタヤウナ譯デ常識ハアルカドウカ知レマセスガ、各市町村ニ於テ此十二條ニ規定シタル所ノ資格ヲ充ス人ハ、何人デモ籤ニ當レバ皆陪審員ニナルコトガ出來ルト云フモノデアリマス、一方ニ於テハ斯ノ如キ陪審員ガアル、一方ニ於テハ九十五條ニアリマスガ如キ、權力アル裁判官ノ諮問ニ應ジテ答申スルト云フコトデゴザイマスナラバ、此結果ハ知ルベキノミト思ヒマス、此陪審員ノ制度ニ於テハ、吾々ガ豫テ期待スルガ如キ大ナル裁判上ノ利益ハ得ラレコトデアルト私ハ確信シマス、サウ云フ譯デゴザイマス、一方ニ斯ノ如キ不十分ナル陪審員ニ付シタガ爲ニ、他ノ一方ニ於テハ控訴若クハ上告ヲ致ス權利ヲ奪ハルト云フコトハ、小ナルモノヲ與ヘテ大ナルモノヲ奪フト云フ結果ニ陥ルコトハ免レナイ、斯ノ如キ場合ニ於テハ、無論陪審員ハ陪審員トシテ、又縱令陪審員ノ答申ヲ得タル判決ニ致シマシテモ、不服アル場合ニ上訴ヲ許スコトニ致シマスレバ、一舉兩得トナツテ、公正ナル裁判ヲ得ラレヤウカト信ズルノデアリマス、斯ク申シマスル、或ハ政府委員ニ於テハ陪審ハ辭スルコトガ出來ルノデアルカラ、上訴ヲ致サウト思フナラバ、辭セバ宜イデナケカト云フ御論ガアルカモ知レマセスガ、是ハ無理デアリマス、或場合ニハ尙ホ上訴ヲシテ救済ヲ得タイト云フヤウナ人ガ澤山アルニ違ヒナイニツテ下ゲテドツチカ一ツ取ル、此方ガ宜イナラ此方ヲ取レバ宜イデハナイカト云フ、成程是モ無理強ヒデ陪審ヲスルニ比スレバ宜イニ違ヒナイ、何シロ陪審ハ裁判上ニモ利益デアアル、被告人ニモ利益デアアルト云フナラバ、其利益ハ被告ニモ受ケサシテ、尙ホ他ニ救済方法モ與ヘルト云フコトガ、即チ一舉兩得、裁判ノ完全ヲ得ル所以デナカラウカト信ズルノデアリマス、然ルニ本法ニ於テハ、絕對ニ控訴ヲ禁ズル、尙ホ事實ノ上告ニ付テモ事實ノ上告ヲ禁ジラレ

ルト云フノハ、ドウ云フ譯デアリマス、尙ホ場合ニ依ッテハ之ヲ一ツ許スヤウニスルニ付テ御同意ハ出來マセスカ、ドウデアリマス、カ

○林政府委員 刑事事件ニ付テ事實ノ真相ヲ發見スルコトハ、言フ迄モナク最モ困難デアリマシテ、或ハ神デナケレバ本統ノ事ハ分ラヌコトモアルデセウガ、併シ法制トシテハ、或程度、手ヲ盡シテ、ソレデ満足スル、斯ウ云フ事ハシマセスト、何時迄モ確定スル時期ハゴザイマセス、ソコデドコノ國ノ法制デモ、或程度デ打切りヲ告ゲル、ソウシテ判決デ確實ト認メル、併シヒドイ間違アレバ、再審ヲ許スト云フコトニナツテ居リマス、ソコデ我ガ陪審法案ニ於テハ、御承知ノ通り直接審理原則ヲ執リマシテ、證人ナゾハ皆デカニ呼出シテ調べテ、常識ノアル人ガ澤山ニソレヲ聽イテ、サウシテ意見ヲ述ベマシテ、ソレガ裁判官ノ意見ト合致スル時ニ判決スル、斯ウ云フ隨分鄭重ナコトニナツテ居リマス、ソレデアリマス、事實ノ判斷ニ付テハ、其程度ニ於テ先ヅ満足ヲシテ宜カラウト考ヘマス、若シ之ニ付テ控訴ヲ許シマシテ、更に控訴審デ陪審ニ掛ケテ判斷スルト云フコトニナリマシテモ、控訴審ノ方ガ犯罪ノ時ヨリハ無論時期ニ於テハ隔リガアリマス、證人ナゾモ記憶モ段々薄クナルト云フヤウナ事デアリマシテ、控訴審デ陪審ニ掛ケテ判斷致シマス場合ニ、果シテドツチガ宜イカト云フコトモ餘程問題ト思ヒマス、陪審ノ判決ニ付シタ事件ニ付テハ、事實ノ覆審ハ許サナイ、斯ウ云フ事ニ致シマスルノガ、實際カラ見マシテモ適當デアアルト考ヘマス、其理由デ斯ウ云フ事ニ致シタ次第デアリマス

○森山委員 第四十九條及第五十條ニ付テ御尋ネシマス、四十九條ニ依リ、公判ノ準備期日外ニ於テ證人又ハ鑑定人ノ訊問ヲ爲ストキハ、被告人モ亦之ニ立會フコトガ出來ル、其場合ニハ日時及ビ場所ハ被告人ニ之ヲ通知スルト云フコトニナツテ居リマス、斯ウ云フ場合ニ、辯護人ノ立會フコトヲ得ルヤ否ヤ、辯護人ニ通知スベキモノデアルカドウカニ付テハ、法文デ見マスト、除外例ノヤウニ見エマス、此場合ニ除外シナイノデアリマス、若シ除外スルトスレバ、何故除外スルノデアリマス、カ

○林政府委員 陪審法ハ刑事訴訟法ノ特別法ノ關係ニナツテ居リマス、刑事訴訟法ニ定メタ一般ノ法則ハ適用サレルコトニナリマス、ソコデ先日來御審議ヲ願ヒマシタ刑事訴訟法案ニ、斯ノ如キ場合ニ於テハ檢事ト辯護人ハ立會フコトガ出來ルコトノ明文ガアリマス、唯被告人ニ付テ規定ハアリマセスカ、特ニ其場合ノミニ規定致シマシタ、御尋ノ辯護人ハ、無論立會フコトガ出來ルコトニナツテ居リマ

○森山委員 第五條ニ依リマス、此陪審ノ請求ハ第一回公判期日前ニ之ヲ爲スベシ、斯ウナツテ居リマス、但書ニ於テ期日前ト雖モ最初ニ定メタ公判期日ノ召喚ヲ受ケタル日ヨリ十日ヲ經過シタル時ハ出來ナイト云フコトニナツテ居リマス、是ハ矢張斯ノ如キ但書ヲ加ヘルト致シマシテ、本則ノ如ク公判期日前ニ請求サヘ致シマスレバ、何等裁判所ノ進行手續等ニハ差支ナイコトデアリマス、斯ウ云フ但書ハ無用デアルト信ジマス、如何デアリマス、カ

○林政府委員 此條文ノ趣意ハ、陪審ノ評議ニ付スルコトニ付テ、被告人ノ請求權ヲ認メタノデアリマス、之ヲ一一定ノ時期ニ制限スルト云フコトハ無論必要デアリマス、ソコデ召喚狀ノ送達ヲ受取テカラ十日間モアレバ、其間ニ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ請求シタガ宜イカドウカト云フコトハ、十分考慮シ相談スルダケノ餘裕ガアルノデアルカラ、ソレデ十日ト云フコトヲ極メタノデアリマス、若シ此制限ヲ付ケヌコトニナリマス、陪審ニ掛ケ手續ト一般ノ訴訟手續トハ、準備手續等ニ違ヒガアリマス、其手續ガ非常ニ混雜シテ、實際上不都合ガ生ジマス、ソレデ十日間ノ餘裕ヲ與ヘレバ十分デアラウト云フ趣意デアリマス

○森山委員 要スルニ本法ハ政府ニ於カレマシテ、種々御苦心ノ上御制定ニナツタモノデアルト云フコトハ諒ト致シマス、完全デアアルヤ否ヤト申スト、頗ル不完全デアルト信ジマス、斯ノ如キ不完全ナ結果ニナツタノハ、ドウ云フ譯デアアルカト云ヘバ、蓋シ各方面ニ種々ノ障害ガアル、即チ左支右吾ノ結果、遂ニ已ムヲ得ズ本法ノ如キ法案ガ出來タモノデアラウト信ズルノデアリマス、就キマシテハ是ガ通過致シマシテモ、先般來申述べタヤウナ次第デ、到底此法案ヲ實施致シマシテ、裁判上ノ改善、人權ノ擁護、被告人ノ利益ト云フヤウナモノヲ、十分得ラレルカドウカト云ヘバ、是ハ恐ラク期待ニ背クデアラウト信ズルノデアリマス、私共ハ出來得ベクンバ此法律發布ノ當初ニ於テ、完全ナルモノヲ出シテ戴キタイト思ヒマス、事情ニ依ッテハ不可能ナ事ガアルカ知リマセスカ、ソレハ姑ク措イテ、兎ニ角幾ニ横田政府委員ニ於カレマシテモ、試ミト云フヤウナ御言葉モアツタヤウデアリマス、此法案ヲ實施シテ見テ、若シ期待ニ背クヤウナコトガアリマシタナラバ、直ニ本法ヲ改正スルナリ、或ハ場合ニ依リマシテハ憲法モ改正致シマシテ、完全ナル陪審法ト云フモノヲ御制定ニナラウト云フヤウナ意見ガアリマス、ドウデアリマセウカ

○山内政府委員 法案ヲ茲ニ出シマスニ付テハ、色々ナ事ガアリマス、コトハ當然デアリマス、其事情ノ下ニ於テ、最モ完全ナルモノト認メタト云フコトハ、度々言明致シマシタノデ、是ガ惡カッタラドウスルト云フコトヲ今日言明スルノ

ハ、甚ダ面白クナイノデアリマス、勿論總テノ事柄ガ現状ニ於テ惡イ、國ニ害ガアルト云フナラバ、是ハ變ヘナケレバナラスノデアリマスガ、茲ニ法案ヲ出ス時ニ於テ、是ハ不完全ダカラ、役ニ立タヌ時ニハ變ヘヤウト云フヤウナコトハ、如何ナル場合デモナイノデアリマシテ、此陪審案ヲ議スルニ當ッテ、特ニ左様ナ不吉ナ事ハ言ハヌ積リデアリマス、將來ノ事ハ茲ニ申上ゲラレマセヌ

○鵜澤委員長 今日ハ是デ散會致シマシテ、明日午前十時カラ開キマス

午後五時三十四分散會